

Title	II 研究活動と研究成果公開
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.59, 2015.3 : 31-113
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5472
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

Ⅱ 研究活動と研究成果公開

(1) シンポジウム・セミナー・講演会

聖学院大学総合研究所では、研究活動の公開と内外の研究者との学術交流を深めるという目的から、毎年、シンポジウム、セミナー、講演会などの学術研究会を開催している。

2012年度から2014年度にかけて下記のシンポジウム・講演会・セミナーを主催した。なお、講演者などの所属、身分は発表当時のものである。

1. 2012年5月17日 福祉のこころ研究講演会「いのちの教育 親子の絆」
(聖学院大学チャペル)【参加者436名】
講演：日野原重明（聖路加国際病院理事長・名誉院長）
司会：助川 征雄（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科長）
2. 2012年5月18日 カウンセリング研究センター講演会「無心とスピリチュアリティ——日本のスピリチュアルケアのために」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者68名】
講演：西平 直（京都大学大学院教育学研究科教授）
司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）
3. 2012年7月13日 カウンセリング研究センター講演会「信仰者にとっての心の病」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者100名】
講演：関根 義夫（元社会福祉法人賛育会賛育会病院院長）
司会：平山 正実（聖学院大学大学院教授）
4. 2012年9月21日 カウンセリング研究センター主催牧会サマーセミナー「牧会者の危機と癒し」(聖学院大学1号館大学院セミナールーム他)【参

加者14名】

講演①：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

講演②：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

グループワーク：藤掛 明（聖学院大学大学院准教授）

コメンテーター：堀 肇（聖学院大学総合研究所，臨床牧会スーパーヴァイザー）

村上 純子（聖学院大学総合研究所カウンセラー）

5. 2012年9月28日 カウンセリング研究センター主催シンポジウム「心の世界を物語に学ぶ」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者88名】

講演①：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

講演②：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

講演③：藤掛 明（聖学院大学大学院准教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

司会：堀 肇（聖学院大学総合研究所，聖学院大学大学院非常勤講師，臨床牧会スーパーヴァイザー）

6. 2012年9月29日 聖学院大学大学院・総合研究所主催日韓学術セミナー「朝鮮半島情勢と北東アジアの安全保障」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者62名】

講演①：康 仁徳（聖学院大学総合研究所特命教授，元韓国統一省長官）

講演②：道下 徳成（政策研究大学院大学（GRIPS）准教授，同安全保障・国際問題プログラムディレクター，国際関係博士）

報告：宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター：小田川 興（聖学院大学総合研究所特命教授）

7. 2012年10月12日 聖学院大学総合研究所講演会（聖学院本部新館2階集会室）【参加者25名】
「アメリカの大学教育——ハーヴァードでの1年から」
講演：増井志津代（上智大学文学部教授）
「冷戦後の世界（その2）——歴史への回帰，東洋と西洋の観点から」
講演：堤 功一（元ハンガリー大使）
8. 2012年10月19日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアル・ケア研究講演会「スピリチュアル・ケア——ホスピス医療の現場から」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者61名】
講演：山形 謙二（神戸アドベンチスト病院院長）
司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）
9. 2012年11月3日 日韓教会交流史研究「1945年以降のデモクラシー憲法と両国教会・世界情勢」（聖学院本部新館3階大会議室）【参加者22名】
講演①：李 致萬（長老会神学大学校教授）
講演②：松本 周（聖学院大学総合研究所助教）
コメント：東野 尚志（聖学院大学総合研究所特命教授）
ランチョン・ディスカッション：高 萬松
（聖学院大学総合研究所助教）
10. 2012年11月27日 カウンセリング研究センター主催臨床死生学研究講演会「遅れてくる了解——われわれの命に再生はあるか」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者43名】
講演：大貫 隆（自由学園最高学部長，東京大学名誉教授）
司会：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）
11. 2013年1月24日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアル・ケア研究講演会「ホスピスケアの目指すもの——ケアタウン小平の取り組み」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者50名】

講演：山崎 章郎（ケアタウン小平クリニック院長）

司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部
こども心理学科長）

12. 2013年2月9日 小学校英語指導法セミナー「「こうやって教えよう小学校英語」——現場からの提案」（聖学院大学エルピス館2階エルピスホール）【参加者25名】

講師①：藤原真知子（聖学院大学総合研究所特任講師）

講師②：ブライアン・バード（聖学院大学総合研究所特任講師）

講師③：ジャスティン・ナイティンゲール

（聖学院大学総合研究所特任講師）

13. 2013年2月13日 カウンセリング研究センター主催臨床死生学研究シンポジウム研究講演会「ヘンリー・ナウエンに学ぶ苦しみと希望——祈り，共苦，コミュニティ」（聖学院大学4号館4階4401大教室）【参加者140名】

講演：大塚野百合（恵泉女学園大学名誉教授）

パネラー：小淵 春夫（出版社あめんどう代表）

パネラー：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

司会：堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師，臨床牧会スーパーヴァイザー）

14. 2013年3月2日 国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義——北朝鮮問題と地域安定の形成」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者85名】

講演①：康 仁徳（聖学院大学総合研究所特命教授，韓国元統一相）

講演②：平岩 俊司（関西学院大学教授）

講演③：道下 徳成（政策研究大学院大学准教授）

講演④：遠藤 哲也（一橋大学大学院客員教授，元日朝国交正常化交渉担当大使）

講演⑤：宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター：小田川 興（聖学院大学総合研究所特命教授，元

15. 2013年3月27日 第2回東日本大震災国際神学シンポジウム「苦難に寄り添い前に向かう教会 (The Church: Embracing the Sufferers, Moving Forward)」

会場：お茶の水クリスチャンセンター8階チャペル【参加者165名】

主催：DRCnet (東日本大震災救援キリスト者連絡会)，東京基督教大学，聖学院大学総合研究所

共催：フラー神学大学院

総合司会：倉沢 正則 (東京基督教大学学長)

主題講演：リチャード・J・マオ (フラー神学大学院学長)

パネルディスカッション：

伊藤 悟 (青山学院大学教授)

岡村 直樹 (東京基督教大学教授)

幸田 和生 (カトリック東京教区補佐司教，カリタスジャパン担当司教)

藤掛 明 (聖学院大学准教授)

全体会：川上 直哉 (東北ヘルプ事務局長)

16. 2013年4月26日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「在宅ホスピスケアと医の原点」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者55名】

講演：川越 厚 (医療法人社団パリアン理事長，クリニック川越院長)

司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長)

17. 2013年6月14日 ラインホルド・ニーバー研究センター主催 国際シンポジウム「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」(青山学院大学総研ビル (14号館) 11F 第19会議室)【参加者80名】

講演①：ロビン・W・ラヴィン (サザン・メソジスト大学全学教授)

講演②：任 成彬 (韓国長老会神学大学校教授)

18. 2013年7月25日 【子どもの人格と絵本】研究プロジェクト主催絵本研修会「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」（聖学院大学2号館2108教室）【参加者25名】

講演①：阿久戸光晴（聖学院大学学長・理事長）

講演②：石川由美子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

司会：寺崎 恵子（聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授）

19. 2013年9月9日 カウンセリング研究センター主催牧会サマーセミナー「牧会における家族の問題」（聖学院大学1号館1102教室（大学院セミナールーム））【参加者26名】

発題①：堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師，臨床牧会スーパーヴァイザー）

発題②：藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

発題③：村上 純子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

20. 2013年9月20日 カウンセリング研究センター主催臨床死生学研究講演会「がん哲学外来」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者61名】

講演：樋野 興夫（順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授）

司会：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

21. 2013年9月27日 カウンセリング研究センター主催カウンセリングシンポジウム「心の世界を絵本に学ぶ」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者102名】

講師①：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

講師②：藤掛 明（聖学院大学大学院准教授，聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

講師③：堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師，臨床牧会スーパーヴァイザー）

司会：平山 正実（聖学院大学大学院教授，聖学院大学人間福祉学部

こども心理学科教授)

22. 2013年10月25日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「命を育むホスピスケア——死にゆく人たちに生かされて」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者59名】
講師：細井 順 (公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院ホスピス長)
司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授, 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長)
23. 2013年12月17日 カウンセリング研究センター主催臨床死生学研究講演会「心の健康とたましいの健康——死生観の回復に向けて」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者71名】
講師：石丸 昌彦 (精神科医, 放送大学教授)
司会：窪寺 俊之 (聖学院大学大学院教授, 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長)
24. 2013年12月18日 聖学院大学主催学術講演会「教会と政治」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者71名】
講演：金 明容 (長老会神学大学校総長)
25. 2014年1月17日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「がん医療の現場からみた心の問題」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者53名】
講師：大西 秀樹 (埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授)
26. 2014年1月29日 FD委員会・教務課・研究支援課共催「アクティブ・ラーニング研修会」(聖学院大学4号館4階会議室)【参加者44名】
講師：菊池 重雄 (玉川大学経営学部国際経営学科教授, 教学部長)
27. 2014年2月15日, 17日 第3回東日本大震災国際神学シンポジウム「苦難を通し, 壁を越えて, 次の世代へ (Raisin Leaders through Sufferings beyond

Walls)」

会場：お茶の水クリスチャンセンター8階チャペル

【参加者79名（2/15）、120名（2/17）】

主催：DRCnet（東日本大震災救援キリスト者連絡会）、東京基督教大学、聖学院大学総合研究所

共催：フラー神学大学院、ホィートン大学

第1日目 主題講演：ホアン・マルティネス（フラー神学大学院）

パネルディスカッション：

稲松 義人（日本基督教団常議員、日本キリスト教社会事業同盟）

菊地 功（カトリック新潟教区司教、カリタスアジア）

倉沢 正則（東京基督教大学）

濱野 道雄（西南学院大学、前日本バプテスト連盟宣教研究所）

全体会 講演：デービット・ボーアン（ホィートン大学人道的災害支援研究所）

第2日目 主題講演：ジョージ・カランティス（ホィートン大学）

28. 2014年4月25日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「死に対峙している魂苦悩にどのように応えるか——ホスピスの現場から」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者90名】

講演：下稲葉康之（社会医療法人栄光会栄光病院理事長・名誉ホスピス長）

司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

29. 2014年6月21日 【子どもの人格と絵本】研究プロジェクト主催研究講演会「絵本の読みあいにおける大人の役割とは？——幼児と母親の絵本の読みあい場面の観察研究からの示唆」（聖学院大学2号館2108教室）【参加者30名】

発表者：齋藤 有（ルーテル学院大学総合人間学部助教）

司会：石川由美子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

30. 2014年9月8日 カウンセリング研究センター主催牧会サマーセミナー
「教会における人間関係」（聖学院大学1号館1102教室（大学院セミナー
ルーム）【参加者28名】

発題①：藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授、臨床心理士）

発題②：堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師、臨床牧会スーパーヴァイザー）

31. 2014年10月24日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「検査社会の到来“健康”が義務となる社会」（聖学院大学
ヴェリタス館教授会室）【参加者36名】

講演：関 正勝（聖路加国際病院チャプレン、立教大学名誉教授）

司会：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

32. 2014年11月7日 聖学院大学・長老会神学大学校共催第4回日韓神学者
学術会議日韓神学シンポジウム2014「いのちの尊厳の確立」（聖学院大学
ヴェリタス館教授会室）【参加者100名】

講演①：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

講演②：朴 成奎（長老神学大学校・助教授）

コメンテーター①：姜 尚中（聖学院大学学長）

コメンテーター②：阿久戸光晴（学校法人聖学院理事長・院長）

コメンテーター③：尹 哲昊（長老神学大学校教授）

33. 2014年11月14日 カウンセリング研究センター主催「物語に学ぶ心の世界」（聖学院大学ヴェリタス館教授会室）【参加者50名】

講演①：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授、聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）

講演②：堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師、臨床牧会スーパーヴァイザー）

講演③：藤掛 明（聖学院大学大学院准教授、聖学院大学人間福祉

学部こども心理学科准教授)

34. 2014年11月29日 【子どもの人格と絵本】研究プロジェクト主催ワークショップ「感性ことばで遊ぼう オノマトペがひらく物語の世界——宮沢賢治の『雪わたり』」(聖学院大学エルピスホール)【参加者52名】

発表者：絵本朗読 宇奈月やつ子(人形劇団ふーせん劇場主催)

司会：石川由美子(聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授)

35. 2014年11月29日 【子どもの人格と絵本】研究プロジェクト主催シンポジウム「絵本の「読み聞かせ」から「読みあい活動」へ 絵本研究シンポジウム」(聖学院大学エルピスホール)【参加者37名】

シンポジスト①：石川由美子(聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授)

シンポジスト②：齋藤 有(ルーテル学院大学総合人間学部心理学科助教)

シンポジスト③：宇奈月やつ子(人形劇団ふーせん劇場主宰)

司会：石川由美子(聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授)

36. 2015年1月16日 カウンセリング研究センター主催スピリチュアルケア研究講演会「心身の病とたましいのケア——大切だけど忘れがちなこと」(聖学院大学ヴェリタス館教授会室)【参加者51名】

講演：田村 綾子(聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授)

司会：窪寺 俊之(聖学院大学大学院教授, 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長)

(2) 共同研究

総合研究所では「共同研究規定」に基づき、研究代表者から申請された「共同研究計画」に沿って、学内外教員、研究者がそれぞれの研究分野での研究成果を持ち寄って「共同研究」を進めている。2013年度より研究分野が整理・統合され、現在は「グローバリゼーション文化総合研究」、「死生学・人間福祉・カウンセリング研究」、「その他研究」の3研究分野となり、11の研究グループが活動しており、大学、聖学院大学新館（駒込）などを会場として、研究会を開催している。

2012年度から2014年までは下記の13の研究グループが活動した。なお、研究者の肩書は発表当時のものである。

1 人文科学研究【旧 ラインホルド・ニーバー研究】

（研究代表：高橋義文 聖学院大学大学院客員教授）

ラインホルド・ニーバーを、神学的、政治学的、社会学的に包括的に研究し、その特質と普遍的・現代的意義、とりわけ現代および将来の日本に対する意義を明らかにする。本研究室はラインホルド・ニーバー研究センター内において、長年、ラインホルド・ニーバー研究室として研究がなされてきた。2011年から2013年度までは、日本学術会議科学研究費補助金（基盤研究B）による研究、「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」（課題番号：23320025）が行われた。2014年度からは名称を人文科学研究と改めたが、ラインホルド・ニーバー研究を主軸にし、継続した研究が行われている。

※2015年より、旧名称「ラインホルド・ニーバー研究」に再改変。

〈研究組織〉（2014年度時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
高橋 義文	聖学院大学大学院客員教授	総合研究所副所長、ニーバー研

- 究センター長，人文科学研究室長〔研究代表〕
- 武田 清子 国際基督教大学名誉教授，ラインホルド・ニーバー研究センター名誉センター長〔研究代表（名誉）〕
- 柳田 洋夫 聖学院大学人文学部日本文化学科准教授，人文学部日本文化学科チャブレン〔研究員〕
- 松本 周 聖学院大学基礎総合学部助教〔研究員〕
- ブライアン・バード 聖学院大学総合研究所特任講師〔研究員〕
- 鈴木 幸 聖学院大学基礎総合学部ポストドクター〔研究員〕

2012年度（研究会）

(1) 2012年6月11日

第1回研究会「ニーバーと社会的福音運動」

高橋 義文（聖学院大学大学院教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者18名】

(2) 2012年7月9日

第2回研究会「ニーバー『人間の運命』の翻訳（第1章）について」

柳田 洋夫（聖学院大学人文学部日本文化学科准教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者18名】

(3) 2012年10月15日

第3回研究会「歴史の意味の開示と成就，歴史の可能性と限界——ニーバー『人間の運命』第2章および第3章の議論を追う」

高橋 義文（聖学院大学大学院教授），鈴木 幸（聖学院大学総合研究所特任研究員）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者22名】

(4) 2012年12月10日

第4回研究会「R. ニーバー政治倫理学と M. ヴェーバー歴史社会学——民主制論をめぐる」

田中 豊治（千葉大学名誉教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者18名】

(5) 2013年2月8日

第5回研究会「ラインホルド・ニーバーの思想の今日性」

佐久間 重（名古屋文理大学教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者16名】

(6) 2013年2月18日

第6回研究会「ニーバー再考——その歴史理解を中心に」

安酸 敏眞（北海学園大学人文学部教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者21名】

翻訳会：4/20, 5/8, 5/15, 5/22, 5/29, 6/5, 6/11, 6/12, 6/27, 7/3,
7/25, 9/25, 10/2, 10/9, 10/23, 11/9, 11/13, 11/20, 11/27,
12/4, 12/11, 12/18, 1/8, 1/22 計24回

2013年度（研究会・シンポジウム）

(1) 2013年6月11日

ラインホルド・ニーバー研究講演会

ラヴィン教授特別講義「キリスト教現実主義と新しい現実（“Christian Realism and the New Realities”）」

ロビン・W・ラヴィン（サザン・メソジスト大学全学教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館教授会室【参加者62名】

(2) 2013年6月14日

国際シンポジウム「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」

高橋 義文（聖学院大学総合研究所所長）、ロビン・W・ラヴィン（サザン・メソジスト大学全学教授）、イム・ソンビン（長老会神学大学学校教授）、千葉 眞（国際基督教大学教授）、西谷 幸介（青山学院大学大学院教授）、東方 敬信（青山学院大学名誉教授）、藤原 淳賀（聖学院大学教授）、ブライアン・バード（聖学院大学総合研究所講師）

会場：青山学院大学総合研究所ビル（14号館）11階第19会議室【参加者80名】

(3) 2013年11月11日

第1回研究会「ニーバーの宗教改革論——ニーバー『人間の運命』第7章「近代文化における人間の運命をめぐる論争——宗教改革」に学ぶ」

高橋 義文（聖学院大学大学院教授）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者18名】

(4) 2013年12月9日

第2回研究会「新聞記事からみる「神学者」ラインホルド・ニーバー」
澤井 治郎（東北大学大学院文学研究科専門研究員）
会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者20名】

(5) 2014年1月27日

第3回研究会「ニーバーの「恵み」の議論——『人間の運命』第4章「知恵・恵み・力」および第5章「恵みと高慢との葛藤」をめぐって」
柳田 洋夫（聖学院大学人文学部日本文化学科准教授・人文学部副チャブレン）、松本 周（聖学院大学基礎総合教育部助教）
会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者13名】

(6) 2014年2月28日

第4回研究会「ニーバーのルネサンス理解の思想史的考察」
安酸 敏眞（北海学園大学人文学部教授）
会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者22名】

翻訳会：4/23, 5/5, 5/12, 5/19, 5/26, 6/30, 7/9, 7/16, 7/23, 7/30,
9/24, 10/8, 10/22, 10/29, 11/6, 11/27, 12/12 計17回

2014年度（研究会）

(1) 2014年7月21日

第1回研究会『『人間の本性と運命』第2巻「人間の運命」第9章「神の国と正義のための戦い（The Kingdom of God and The Struggle for Justice）について」
柳田 洋夫（聖学院大学人文学部日本文化学科准教授・同人文学部チャブレン）
会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者11名】

(2) 2014年12月8日

第2回研究会「ニーバーの終末論——『人間と運命』第10章をめぐって」
高橋 義文（聖学院大学大学院客員教授・聖学院大学総合研究所副所長）
会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者12名】

(3) 2015年1月19日

第3回研究会「ラインホルド・ニーバーの恩寵論——救済恩寵と一般

恩寵の弁証法的関係」五十嵐成見（日本キリスト教団花小金井教会牧師・聖学院大学大学院ヨーロッパ文化研究科博士課程3年）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者13名】

研究成果公開

- 1) 研究会での発表内容の一部、および、翻訳会の成果は『総合研究所紀要』に順次掲載されている。研究会の報告は『総合研究所Newsletter』に掲載されている。
- 2) 2013年国際シンポジウムの内容は『総合研究所紀要』57号別冊、国際シンポジウム「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」特集号（2014年3月31日発行）にまとめられている。
- 3) 日本学術会議科学研究費補助金（基盤研究B）による研究、「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」（課題番号：23320025）の成果は科研費研究報告書（2013年3月31日発行）にまとめられ、また、英文で編集されたものが聖学院大学出版会より発行されている。

Takahashi, Yoshibumi ed., *Reinhold Niebuhr, Christian Realism, and Social Ethics*. 〈A Theology of Japan: Monograph Series 8〉2014年12月1日発行。

2 臨床死生学研究（カウンセリング研究センター）

（研究代表：故 平山正実 聖学院大学大学院教授）

死生学の学問領域は、広範囲に及ぶ。しかし、われわれが研究課題とする死生学は、それを解明するにあたって、現実の人間生活の中で生起する死と生に焦点を絞った臨床死生学的方法を採用する。とくに臨床死生学の分野の中でも、われわれが関心を持つのは、臨床死生学の現場における悲しめる人々への援助活動の連携である。つまりカウンセリングを中心として、医師、看護師、カウンセラーなどがなす様々な援助は、どのように連携してなされるべきかというテーマで研究を進めた。現実の人間生活の中で生起する死と生に焦点を絞った臨床死生学的方法を採用した。臨床死生学の現場で働く、医師、看護師、カウンセラーなど様々な立場の方々を講師として研究会を開催した。この現場のケーススタディを中心としているところに本研究の特色がある。

なお、2014年度以降は、研究代表であった平山正実教授のご逝去に伴い、活動を休止している。

〈研究組織〉(2014年度時)

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
故 平山正実		[研究代表]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長，カウンセリング研究センター長，スピリチュアルケア研究室長	[副代表]
藤掛 明	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，カウンセリング研究センター心理相談グリーフケアルーム相談室長代行，臨床心理士	[代表補助]
村上 純子	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，カウンセリング研究センター心理相談グリーフケアルームカウンセラー，臨床心理士	[研究員]
高橋 克樹	日本聖書神学校総務部長・豊島岡教会牧師	[研究員]
小高 康正	長野大学企業情報学部教授	[研究員]
吹抜 悠子	東京外国語大学非常勤講師	[研究員]
斉藤 弘子	フリージャーナリスト	[研究員]
宗村 弥生	東京女子医大看護学部教員	[研究員]
海野志ん子	福島生と死を考える会会長	[研究員]
安達富美子	東京歯科大学市川総合病院看護部長	[研究員]
門林 道子	昭和薬科大学非常勤講師	[研究員]
大西奈保子	東北福祉大学健康科学部非常勤講師	[研究員]
村上 典子	神戸日赤病院心療内科部長	[研究員]

2012年度（講演会・シンポジウム・日本臨床死生学会・同実行委員会・同企画委員会・その他）

本学の窪寺俊之教授が「日本臨床死生学会第18回大会」大会長となったため、本学挙げて大会運営にあたった。

日本臨床死生学会第18回大会

企画委員会 4/10, 5/8, 7/24, 9/13, 9/20

実行委員会 4/20, 5/17, 9/13, 10/10, 11/14

(1) 2012年7月13日

臨床死生学研究講演会「信仰者にとっての心の病」

関根 義夫（元社会福祉法人賛育会賛育会病院院長）

聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室 【参加者100名】

(2) 2012年11月23日, 24日

日本臨床死生学会第18回大会「スピリチュアルケアの実現に向けて——
理論・実践・制度」

会場：女子聖学院中学校・高等学校【参加者200余名（2日間延）】

大会長：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

〈企画委員〉

葛西 賢太（宗教情報センター研究員）

小森 英明（浄土真宗高田派僧侶，武蔵野大学仏教文化研究所研究員）

三澤 久恵（人間総合科学大学教授）

林 章敏（聖路加国際病院ホスピス医長）

松田 卓（亀田総合病院緩和ケアチャプレン）

原 敬（さいたま日本赤十字病院緩和ケア部長）

大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授）

種村健二郎（杏雲堂病院緩和ケア顧問）

本郷久美子（三育学院大学看護学部長）

平山 正実（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

松本 周（聖学院大学総合研究所助教）

竹淵 香織（聖学院大学基礎総合教育課程助教）

豊川 慎（聖学院大学総合研究所特任研究員）

〈聖学院大学実行委員〉

窪寺 俊之，平山 正実，藤掛 明，松本 周，竹淵 香織，木村 美里，

豊川 慎（敬称略）

(3) 2012年11月27日

臨床死生学研究講演会「遅れてくる了解——われわれの命に再生はあるか」

大貫 隆（自由学園最高学部長，東京大学名誉教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者43名】

(4) 2013年2月13日

臨床死生学研究シンポジウム「ヘンリー・ナウエンに学ぶ苦しみと希望——祈り，共苦，コミュニティ」

大塚野百合（恵泉女学園大学名誉教授），小渕春夫（出版社あめんどう代表），平山正実（聖学院大学大学院教授）

会場：聖学院大学4号館4階4401教室【参加者140名】

2013年度（講演会・シンポジウム）

(1) 2013年9月20日

臨床死生学研究講演会「がん哲学外来」

樋野 興夫（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者61名】

(1) 2013年12月17日

臨床死生学研究講演会「こころの健康とたましいの健康」

石丸 昌彦（精神科医，放送大学教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者71名】

2014年度

活動休止

研究成果公開

臨床死生学研究講演会の内容を収録した下記の書籍が聖学院大学出版会より発行されている。

- 1) 平山正実，堀肇編著『ヘンリー・ナウエンに学ぶ——共苦と希望』2014年3月31日発行
- 2) 窪寺俊之編著『希望を支える臨床生死観』〈臨床死生学研究叢書5〉2015年2月16日発行（関根義夫「信仰者にとっての心の病」，大貫隆「遅れて

くる了解——われわれの命に再生はあるか」, 石丸昌彦「こころの健康とたましいの健康」を収録)

- 3) 窪寺俊之編著『スピリチュアルケアの実現に向けて——「第18回日本臨床死生学会大会」の取り組み』〈スピリチュアルケアを学ぶ4〉2013年10月12日発行(日本臨床死生学会第18回大会のシンポジウム発表を収録)。

3 牧会心理研究(カウンセリング研究センター)

日本における宗教指導者のメンタル・ヘルスに関する臨床心理学的研究
(研究代表: 藤掛 明 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授)

日本におけるキリスト教宗教指導者やそれに準ずる者, すなわち神学生・牧師・牧師夫人の意識調査を行い, それを臨床心理学的に分析を行った。宗教活動にたずさわる者特有の課題や問題点を浮き彫りにした。「牧会心理研究会」にて, キリスト教牧師の信徒や地域住民に対する援助活動(牧会)における諸現象につき, 臨床心理学的見地から分析・研究を行った。毎年9月に行われる牧会サマーセミナーでは, 日本のキリスト教界, 牧会における, 様々な心の問題にまつわる各種テーマを取り上げ, 神学的, 精神医学的, 心理学的な考察を行った。これまで, 日本において実証的研究がほとんどなされてこなかったキリスト教指導者のメンタル・ヘルスについて分析し, 宗教と精神医学や臨床心理学との関係について考察していく。

〈研究組織〉(2014年度時)

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
藤掛 明	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授, カウンセリング研究センター心理相談グリーンケアルーム相談室長代行, 臨床心理士	[研究代表]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院教授, 人間福祉学部こども心理学科長, カウンセリング研究センター長, スピリチュアルケア研究室長	[副代表]
賀来 周一	キリスト教カウンセリング・センター相談所長	[研究員]
村上 純子	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授, カウンセリ	

		ング研究センター心理相談グリーンケアルームカウンセラー， 臨床心理士〔研究員〕
竹 潤	香 織	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，学生相談室 副室長〔研究員〕
堀	肇	聖学院大学大学院非常勤講師，カウンセリング研究センター 牧会電話相談カウンセラー，臨床牧会スーパーヴァイザー〔研 究技術者〕
坂野	慧吉	浦和福音自由教会牧師〔研究員〕
根田	祥一	百万人の福音誌編集長〔研究員〕
吉岡	光人	日本キリスト教団吉祥寺教会牧師，キリスト教カウンセリン グ・センター理事〔研究員〕

2012年度（研究会）

（1）研究会

〈牧会心理研究第1グループ〉

第1回 2012年7月19日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者12名】

第2回 2012年10月11日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者6名】

第3回 2013年1月24日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者6名】

〈牧会心理研究第2グループ〉

第1回 2012年6月22日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者8名】

第2回 2012年10月5日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者6名】

第3回 2013年1月18日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者6名】

2013年度（研究会）

（1）研究会

〈牧会心理研究第1グループ〉

第1回 2013年5月16日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者6名】

第2回 2013年10月10日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者8名】

第3回 2014年1月23日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者7名】

〈牧会心理研究第2グループ〉

第1回 2013年5月10日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者7名】

第2回 2013年9月20日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者9名】

第3回 2014年1月31日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者6名】

2014年度（研究会）

（1）研究会

〈牧会心理研究第1グループ〉

第1回 2014年5月29日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）
会場：聖学院大学内【参加者8名】

第2回 2014年10月9日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者8名】

第3回 2015年1月22日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者7名】

〈牧会心理研究第2グループ〉

第1回 2014年5月16日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者7名】

第2回 2014年9月5日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者3名】

第3回 2015年2月6日

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学内【参加者6名】

2010年度より研究会は2つのグループに分かれて継続して行われている。参加者の多様な問題意識に基づき、牧師として直面している多くの体験が分かち合われた。1人の担当者が、困難を覚えている（あるいは、過去において困難を覚えた）事例やトピックスを報告し、全体で分かち合うかたちで続けられた。毎回、語り合う内容は多岐に及び、かつ参加者により、いろいろな感想が交換されるのであるが、思いのほか似た体験の披露があり、不思議な慰めと新たな洞察を得ている。また、研究会の終わりに、臨床心理学の立場から筆者が、提供された事例やトピックスに対して、短いコメントを述べている。毎回、取り上げられる事例やトピックスは多岐に渡るものの、信徒との人間関係、病者との人間関係、同業者との人間関係など、つくづく牧会者が「人間関係」に直面しながら活動する専門家であることが印象づく。また、毎回感心することであるが、牧会相談と心理相談の違いである。たしかに心理相談には、複雑な相談ごとを受けるための知恵としての諸原則（契約であったり多重関係性の禁止であったり）がある。しかし、牧会者は、そうした原則を越えて相談に応じていくときがままある。そのデメリットを承知の上で、なお使命に生き

ていこうとする姿が見られ、それが、牧会相談の難しさである。(藤掛 明)

牧会サマーセミナー報告

2012年度

12年9月21日(金)に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。14名の参加者があった。テーマは「牧会者の危機と癒し」。

牧会者として召された人が、今、教会の現場で疲れ果て、自分の癒しを求めている。神の召命に応えられない苦しみを負っている。牧会者が癒され、元気に主の教会に仕えられる道を一緒に考え、新たな牧師像を見出すためのセミナーとなった。

- ～ 9 : 30 受付
- 9 : 30～10 : 30 講演1 平山正実
- 10 : 30～12 : 30 グループワーク
- 12 : 30～13 : 30 昼休み
- 13 : 30～15 : 00 ディスカッション
- 15 : 00～16 : 00 講演2 窪寺俊之
- 閉会

2013年度

13年9月9日(月)に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。26名の参加者があった。テーマは「牧会における家族問題」。報告は『総合研究所 Newsletter』Vol.23-2, p.25, 2013に掲載。

家族療法の基礎的な考え方として、家族を個人の集まりとしてだけではなく、家族それ自体を一つのものとしてとらえ、理解していくこと。家族を考える上で、親子関係だけでなく兄弟関係も重要な要素であることが発題者より示された。自らが牧師の家庭に育ったものとしての経験など、牧師の家庭の諸問題に問題提起などが行われた。

- 9 : 30～10 : 00 開会の挨拶と自己紹介
- 10 : 00～10 : 40 発題者① 堀 肇

- 10：40～11：20 発題者② 藤掛 明
- 11：20～12：00 発題者③ 村上純子
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～15：00 グループに分かれて話し合い
- 15：00～16：00 グループの報告とまとめ

2014年度

14年9月8日（月）に下記の内容にて牧会サマーセミナーを開催した。28名の参加者があった。テーマは「教会における人間関係」。報告は『総合研究所 Newsletter』Vol.24-2, p.17, 2014に掲載。

パーソナリティ障害は性格の偏りが著しく、社会生活に支障をきたす場合も多い。そのような障害を持つ人の特性や、その方々が教会の中で起こしやすいトラブルなどを、実際例から学んだ。また、人は生まれ育った環境、親の養育態度によって、身につける環境への適応タイプが異なること、それによってその人とのかかわり方において注意すべきポイントが異なることをよく理解できるセミナーであった。

- 9：30～10：00 開会の挨拶と自己紹介
- 10：00～10：40 発題者① 藤掛 明
- 10：40～11：20 発題者② 堀 肇
- 11：20～12：00 質疑・応答
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～15：00 グループに分かれて話し合い
- 15：00～16：00 グループの報告とまとめ

4 スピリチュアルケア研究（カウンセリング研究センター）

スピリチュアリティ（霊性）の構造分析と病む人へのケア学研究
（研究代表：窪寺俊之 聖学院大学大学院教授）

近年我が国でもスピリチュアルケアの必要性に気づき始め研究が開始された。スピリチュアルケアの実践に向けて、スピリチュアルケアの「定義」が

今、大きな課題になっている。研究の主な課題はスピリチュアリティ（霊性）を歴史的・文化的・臨床的に考察しながら、臨床の現場で使えるスピリチュアルケアを創出することである。スピリチュアリティの構造分析をすることで、臨床に使えるスピリチュアルケアの方法が明らかになった。病む人へのスピリチュアルケアの学際的研究を行った。当該研究には理論家と実践家の2種類の研究者が参加。スピリチュアリティ（霊性）について歴史的・文化的研究者と、実践家による両研究家対話を繰り返しながら、スピリチュアリティの本質を構造的に明確にした。スピリチュアリティ（霊性）が構造的に分析されることで、今後の終末期医療におけるスピリチュアルケアの具体化に確実に貢献することができた。

〈研究組織〉（2014年度時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
窪寺 俊之	聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長，カウニング研究センター長，スピリチュアルケア研究室長	[研究代表]
田村 綾子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授	[研究員]
竹渕 香織	(聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授)	[研究員]
松本 周	(聖学院大学基礎総合教育部助教)	[研究員]
小森 英明	(浄土真宗高田派僧侶，武蔵野大学仏教文化研究所研究員)	[研究員]

2012年度（講演会・その他）

(1) 2012年5月18日 スピリチュアルケア研究講演会

「無心とスピリチュアリティ——日本的なスピリチュアルケアのために」

西平 直（京都大学大学院教育学研究科教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者68名】

(2) 2012年10月19日 スピリチュアルケア研究講演会

「スピリチュアルケア——ホスピス医療の現場から」

山形 謙二（神戸アドベンチスト病院院長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者61名】

(3) 2012年11月23日，24日 日本臨床死生学会第18回大会

「スピリチュアルケアの実現に向けて——理論・実践・制度」

大会長：窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

会場：女子聖学院中学校・高等学校【参加者200余名（2日間延）】

〈企画委員〉

葛西 賢太（宗教情報センター研究員）

小森 英明（浄土真宗高田派僧侶，武蔵野大学仏教文化研究所研究員）

三澤 久恵（人間総合科学大学教授）

林 章敏（聖路加国際病院ホスピス医長）

松田 卓（亀田総合病院緩和ケアチャプレン）

原 敬（さいたま日本赤十字病院緩和ケア部長）

大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授）

種村健二郎（杏雲堂病院緩和ケア顧問）

本郷久美子（三育学院大学看護学部長）

平山 正実（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

松本 周（聖学院大学総合研究所助教）

竹淵 香織（聖学院大学基礎総合教育課程助教）

豊川 慎（聖学院大学総合研究所特任研究員）

〈聖学院大学実行委員〉

窪寺 俊之，平山 正実，藤掛 明，松本 周，竹淵 香織，

木村 美里，豊川 慎

(4) 2013年1月24日

スピリチュアルケア研究講演会「ホスピスケアの目指すもの——ケアタウン小平の取り組み」

山崎 章郎（ケアタウン小平クリニック院長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者50名】

2013年度（講演会）

(1) 2013年4月26日

スピリチュアルケア研究講演会「在宅ホスピスケアと医の原点」

川越 厚（医療法人パリアン川越クリニック院長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者55名】

(2) 2013年10月25日

スピリチュアルケア研究講演会「いのちを育むホスピスケア——死にゆく人たちに生かされて」

細井 順（公益財団法人近江兄弟社ヴォーリズ記念病院ホスピス長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者59名】

(3) 2014年1月17日

スピリチュアルケア研究講演会「がん医療の現場からみた心の問題」

大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者53名】

2014年度（研究会・講演会）

(1) 2014年4月25日

スピリチュアルケア研究講演会「死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか」

下稲葉康之（社会医療法人栄光会栄光病院理事長・名誉ホスピス長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者90名】

(2) 2014年7月23日

第1回スピリチュアルケア研究会「スピリチュアル・アセスメントの困難性」

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長，カウンセリング研究センター長，スピリチュアルケア研究室長）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者16名】

(3) 2014年10月10日

第2回スピリチュアルケア研究会〔東京スピリチュアルケア研究会共催〕

「スピリチュアルケアの可能性——精神保健福祉領域の実態からの一考察」

田村 綾子（聖学院大学人間福祉学科准教授，スピリチュアルケア研究員，日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー）

会場：聖学院新館〔駒込〕2階集会室【参加者21名】

(4) 2014年10月24日

スピリチュアルケア研究講演会「検査社会の到来“健康”が義務となる社会」

関 正勝（聖路加国際病院チャブレン，立教大学名誉教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者36名】

(5) 2014年11月24日

第3回スピリチュアルケア研究会「スピリチュアルケアと宗教・哲学・心理学」

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者12名】

(6) 2015年1月16日

スピリチュアルケア研究講演会「心身の病とたましいのケア——大切だけれど忘れがちなこと」

田村 綾子（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授，日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者51名】

(7) 2015年1月30日

第4回スピリチュアルケア研究会〔東京スピリチュアルケア研究会共催〕
「仏性とスピリチュアリティを考える——仏教は‘スピリチュアルケア’に堪えるか？」

小森 英明（浄土真宗高田派僧侶，武蔵野大学仏教文化研究所研究員）

会場：聖学院新館「駒込」2階集会室【参加者14名】

研究成果公開

研究会・講演会・シンポジウムの内容は〈スピリチュアルケアを学ぶ〉シリーズに収録され，聖学院大学出版会より刊行されている。

実施報告は『総合研究所Newsletter』に掲載。

2012年度から2014年度における書籍刊行は下記のとおり。

〈スピリチュアルケアを学ぶ〉シリーズ 窪寺俊之編著

スピリチュアルケアを学ぶ3『スピリチュアルコミュニケーション——生きる希望と尊厳を支える』（2013年3月21日発行）

スピリチュアルケアを学ぶ4『スピリチュアルケアの実現に向けて——「第18回日本臨床死生学会大会」の取り組み』（2013年10月12日発行）

スピリチュアルケアを学ぶ5『愛に基づくスピリチュアルケア——意味と関係の再構築を支える』（2014年1月10日発行）

5 カウンセリング研究（カウンセリング研究センター）

（研究代表：藤掛 明 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

カウンセリング研究センターでは、先の臨床死生学研究，牧会心理研究，スピリチュアルケア研究に続き，カウンセリング研究の4本の研究を柱にして，心の癒しや成長を，スピリチュアリティ（霊性）などを視野に入れた研究を行っている。カウンセリング研究では補助活動事業である心理相談室グリーフケア・ルームなどでのカウンセリングを通じて，精神医学的，心理学的な実践・研究を行っている。

〈研究組織〉（2014年度時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
藤掛 明	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，カウンセリング研究センター心理相談グリーフケアルーム相談室長代行，臨床心理士	〔研究代表〕
窪寺 俊之	聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長，カウンセリング研究センター長，スピリチュアルケア研究室長	〔副代表〕
村上 純子	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，カウンセリング研究センター心理相談グリーフケアルームカウンセラー，臨床心理士	〔研究員〕
竹渕 香織	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授，学生相談室副室長	〔研究員〕
堀 肇	聖学院大学大学院非常勤講師，カウンセリング研究センター牧会電話相談カウンセラー，臨床パストラルスーパーヴァイザー	〔研究技術者〕

小渕 朝子 カウンセリング研究センター心理相談グリーンケアルームカウンセラー，臨床心理士〔研究技術者〕

2012年度（シンポジウム・その他）

(1) 2012年9月28日

カウンセリングシンポジウム「心の世界を物語に学ぶ」

平山 正実（聖学院大学大学院教授），窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授），藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者88名】

詳しい報告は『総合研究所Newsletter』Vol.22-2, p.21, 2012に掲載。

(2) 心理相談室グリーンケア・ルームでのカウンセリング活動

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

28回，延べ49名

村上 純子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

32回，延べ61名

小渕 朝子（臨床心理士）：2回，延べ4名

2013年度（シンポジウム・その他）

(1) 2013年9月27日

カウンセリングシンポジウム「心の世界を絵本に学ぶ」

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授），藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授），堀 肇（聖学院大学大学院非常勤講師）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者102名】

詳しい報告は『総合研究所Newsletter』Vol.23-2, p.32, 2013に掲載。

(2) 心理相談室グリーンケア・ルームでのカウンセリング活動

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

14回，延べ33名

村上 純子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

17回，延べ26名

小渕 朝子（臨床心理士）：18回，延べ29名

2014年度（シンポジウム・その他）

(1) 2014年11月14日

カウンセリングシンポジウム「物語に学ぶ心の世界」

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授，人間福祉学部こども心理学科長），

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授），堀

肇（鶴瀬恵みキリスト教会牧師，臨床牧会スーパーヴァイザー・聖学院大学大学院非常勤講師，カウンセリング研究センターカウンセラー）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室【参加者50名】

詳しい報告は『総合研究所Newsletter』Vol.24-2, pp.35-38, 2014に掲載。

(2) 心理相談室グリーンケア・ルームでのカウンセリング活動

藤掛 明（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

28回，延べ49名

村上 純子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）：

32回，延べ61名

小淵 朝子（臨床心理士）：2回，延べ4名

6 福祉のこころ研究（人間福祉学研究）

「福祉の心」とは——人間福祉学を考える

（研究代表：中村磐男 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科特任教授）

本学の人間福祉学部人間福祉学科は，学科創立理念の中に，「福祉の心と専門知識に裏打ちされた精神ある専門人」を謳っている。「福祉の心」は「人間福祉総論」や「キリスト教人間学」などの科目を通して伝えられているが，「福祉の心」とは何かについて明確な文章化は，未だなされていない。本学人間福祉学部および大学院人間福祉学研究科で掲げる「福祉の心」とは何かについて研究を行うとともに，創立時の理念の継承とその発展を研究の目的としている。

〈研究組織〉（2014年度時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
中村 磐男	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科特任教授	〔研究代

表・プログラム委員]

柏木 昭	聖学院大学総合研究所名誉教授 [副代表・プログラム委員]
牛津 信忠	聖学院大学人間福祉学部部長兼大学院人間福祉学研究科長 [プログラム委員]
助川 征雄	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授 [プログラム委員]
相川 章子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授, 学長補佐 [プログラム委員]

2012年度

(1) 2012年5月17日

福祉のこころ研究講演会 人間福祉学部こども心理学科新設記念「いのちの教育 親子の絆」

日野原重明 (聖路加国際病院理事長・名誉院長)

会場：聖学院大学チャペル 【参加者436名】

2012年4月、聖学院大学にこども心理学科が新しいビジョンをもって新設された。こども心理学科は、心理学の基礎的知識や技術を身につけた上に、心に深い傷や痛みをもつ子どもたちに「寄り添っていく」人間としての実力をもった学生を育てたいと願っている。寄り添う力には忍耐という愛や人の苦しみを聴く感性や人を信じる力が求められる。こども心理学科新設を記念して、聖路加国際病院理事長の日野原重明先生をお迎えした。日野原先生は子どもたちへの「いのちの教育」に力を注いでいる。クリスチャンの医師、教育者、病院理事長として多角的視野から「いのちの教育」についての講演をいただいた。

2013年度

活動なし

2014年度 (研究会・その他)

(1) 2014年10月11日

福祉のこころ研究会「福祉のこころを育む——スーパービジョン体験：バイジャーとして、バイザーとして」

廣江 仁（社会福祉法人養和会指定障害福祉サービス事業所F&Y境港所長・認定スーパーバイザー，精神保健福祉士，元聖学院大学非常勤講師）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者19名】

※同日開催された「ピア・スーパービジョン（研修交流会）」と共催

(2)「人間福祉学科」設置の理念と経緯についての調査研究

聖学院大学になぜ，「人間福祉学科」が設置されたかについて，その理念と経緯について調査している。大学院人間福祉研究科創設のときも，関係官庁から，なぜ，「社会福祉学研究科ではないのか」，なぜ，「修士社会福祉学」ではないのかという指導があった。学科創設時の理事長であり，大学院設置時の理事長・研究科長であった大木英夫先生から，当時の経緯など聞き取り調査をさせていただいている。また，人間福祉学科創立に深く関与した，阿久戸光晴理事長の意向も伺えればと思っている。高橋義文大学院教授からは，福祉と神学に関わるご著書の提供をいただいている。

研究成果公開

研究成果として下記のブックレットが聖学院大学出版会より発行された。

- 1) 福祉の役わり・福祉のころ 5『生きがいを感じて生きる』日野原重明（A5判76ページ，2012年10月15日発行）
- 2) 福祉の役わり・福祉のころ 6『「いま，ここで」のかかわり』(石川到覚：宗教と福祉，柏木 昭：特別講義 人間福祉スーパービジョン)（A5判97ページ，2013年3月15日発行。2011年12月3日，聖学院大学ヴェリタス館教授会室での石川到覚先生の講演と，柏木昭先生の聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンターにおける，グループ・スーパービジョン実践からの報告を所収）

7 〈児童〉における「総合人間学」の試み研究（児童学研究）

（研究代表：村山順吉 聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

- 1) 人間学基礎研究，心理学的側面からのアプローチ
- 2) 文化論的側面からのアプローチ

- 3) 保育学的側面からのアプローチ
- 4) 福祉学的側面からのアプローチ
- 5) キリスト教教育からのアプローチ

人間基礎研究を起点として〈児童〉に対する5つの視点からの研究的アプローチを行い、それらの関係交錯を経て、〈児童〉における「総合人間学」について研究を行っている。

〈研究組織〉(2014年度時)

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
村山 順吉	聖学院大学人間福祉学部児童学科学科長，聖学院小学校校長	[研究代表]
田澤 薫	聖学院大学人間福祉学部児童学科副学科長兼学科長代行	[代表補助]
阿久戸光晴	学校法人聖学院理事長・院長，聖学院大学政治経済学部部長兼大学院政治政策学研究科長，学生総合支援センター所長，IR室長，聖学院大学出版会長，聖学院大学総合研究所副所長兼所長代行	[研究員]
鈴木 明	大東文化大学スポーツ・健康科学部教授	[研究員]
森下みさ子	白百合女子大学文学部児童文化学科教授	[研究員]
鎌原 雅彦	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
喜田 敬	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
小池 茂子	聖学院大学人間福祉学部児童学科教授	[研究員]
山口 博	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任教授	[研究員]
相川 徳孝	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
佐藤 千瀬	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
寺崎 恵子	聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授	[研究員]
広瀬 歩美	聖学院大学人間福祉学部児童学科助教	[研究員]
市村 和子	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
川瀬 敏行	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
齋藤 範雄	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
坂本佳代子	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]
佐治由美子	聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師	[研究員]

2012年度（研究会）

(1) 2012年4月2日

第1回児童学研究会「安らぎを感じさせる発音・発声」

藤田 明（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者20名】

(2) 2012年6月20日

第2回児童学研究会「カナダ諸州における学力保障政策」

小川 洋（聖学院大学人間福祉学部欧米文化学科教授）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者15名】

(3) 2012年9月26日

第3回児童学研究会「キリスト教保育の実践と課題」

相川 徳孝（聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者15名】

(4) 2013年2月20日

第4回児童学研究会「中・高校生のモラル意識形成に影響を及ぼす要因について」

小池 茂子（聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者11名】

2013年度（研究会）

(1) 2013年4月1日

第1回児童学研究会「子どもたちと私」

吉岡 晶子（元お茶の水女子大学附属幼稚園教諭）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者14名】

(2) 2014年1月13日

第2回児童学研究会「子どもの思いや願いを生かした授業づくり——生活科、国語科を中心に」

市村 和子（聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者15名】

(3) 2014年2月12日

第3回児童学研究会「児童福祉実践論における行為法の可能性——ゼミ活動での展開」

坂本佳代子（聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者14名】

2014年度（研究会・その他）

(1) 2014年4月1日

第1回児童学研究会「生涯にわたる健康管理の重要性と次世代への影響」

広瀬 歩美（聖学院大学人間福祉学部児童学科助教）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者19名】

(2) 2015年1月12日

第2回児童学研究会「伝統的な心理学の中のこども」

鎌原 雅彦（聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）

会場：聖学院大学4号館4階4403教室（第二会議室）【参加者15名】

(3) 2015年2月25日

第3回児童学研究会 「「こどものまち」で培われる高学年児童の主体性について——子どもがつくるまちミニさいたまを支える大人の関わりから」

老川 南美（聖学院大学大学院人間福祉学研究科修士課程2年）

会場：聖学院大学4号館4階4403教室（第二会議室）【参加者19名】

研究成果公開

- (1) 2012年度第1回児童学研究会「安らぎを感じさせる発音・発声」,『総合研究所Newsletter』 Vol.22-1, pp.21-23, 2012
- (2) 2012年度第2回児童学研究会「カナダ諸州における学力保障政策」,『総合研究所Newsletter』 Vol.22-2, pp.12-14, 2012
- (3) 2012年度第3回児童学研究会「キリスト教保育の実践と課題」,『総合研究所Newsletter』 Vol.22-2, pp.15-18, 2012
- (4) 2013年度第1回児童学研究会「子どもたちと私」,『総合研究所Newsletter』 Vol.23-1, pp.17-21, 2013
- (5) 2013年度第2回児童学研究会「子どもの思いや願いを生かした授業づくり——生活科, 国語科を中心に」,『総合研究所Newsletter』 Vol.23-3, pp.39-

44, 2014

- (6) 2014年度第1回児童学研究会「生涯にわたる健康管理の重要性と次世代への影響」,『総合研究所Newsletter』Vol.24-1, pp.32-33, 2014
- (7) 2014年度第3回児童学研究会「「こどものまち」で培われる高学年児童の主体性について——子どもがつくるまちミニさいたまを支える大人の関わりから」,『総合研究所Newsletter』Vol.24-3, pp.61-62, 2015

8 【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト 子どもの育ちと絵本研究 (こども心理学研究)

(研究代表: 中村磐男 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科特任教授)

2012年度4月, 人間福祉学部「こども心理学科」が開設された。開設の根底には2011年3月11日の大震災から今なお続いている人々の苦悩や苦痛, 悲しみへの深い共感がある。こどもの健やかな成長に寄り添う専門家の育成が急務という強い思いに根ざした学科である。また, その学びを通して学生自身の内面の成長をアシストし, 困難に打ち勝つ「生きる力」を育てる。つまり, 大学本来の使命である「学ぶ力」の向上へのアプローチを目指している。そのような学生の身の内に育つ力の育成には, 地域との具体的な結びつきの経験の場が欠かせない。そこで, こども心理学科では, 被災地でのこどもの心のケア(スピリチュアルケア)を目的とした「絵本の読み聞かせプロジェクト」を行っている。

絵本という文化・歴史的なモノが, 読み合う活動を通して, こどもの発達, こどもや大人の心の癒し効果があるという知見は, 心理学的な手法を用いた研究から明らかにされてきている。しかし, 地域に根ざした本格的な研究知見は, まだまだ蓄積されていない。絵本を介した活動が大人と子どもの間に生じる「こころ」にどう働きかけるか, また, 地域支援にいかに関与することができるのか, また学生の生きる力にどう貢献するのか, を明らかにしていくことで, 絵本での支援は, 心のケアのみならず, 育児に悩む大人への援助, こどもの発達へのアプローチ, 障害のある子どもへの学びのアプローチ, 学生の生きる力へのアプローチなど, 多方面で貢献が期待できると考えられ, 2012年後半より活動が開始された。

〈研究組織〉（役職名等は2014年度）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
中村 磐男	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科特任教授	〔研究代表・世話人〕
阿久戸光晴	学校法人聖学院理事長	〔研究員・顧問〕
窪寺 俊之	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長	〔研究員・顧問〕
牛津 信忠	聖学院大学人間福祉学部長兼大学院人間福祉学研究科長	〔顧問〕
石川由美子	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授	〔研究員・世話人〕
寺崎 恵子	聖学院大学人間福祉学部学児童学科准教授	〔研究員〕
齊藤理砂子	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授	〔研究員〕
井上 知洋	聖学院大学人間福祉学部こども心理学科助教	〔研究員〕
佐藤 朝美	愛知淑徳大学人間情報学部講師	〔研究協力者〕
佐藤 鮎美	京都橘大学健康科学部心理学科助教	〔研究協力者〕
齋藤 有	ルーテル大学総合人間学部心理学科助教	〔研究協力者〕
水谷 勉	聖学院大学非常勤講師	〔研究協力者〕
小林 久常	高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科特任教授	〔研究協力者〕

〈地域連携研究協力者〉

上尾市読書活動推進センター

埼玉県特別支援教育課

聖学院大学総合図書館

聖学院大学アドミッション課

2012年度

1. 「子どもの育ちと絵本研究会」の開催

- 1) 2012年7月 外部研究協力者と共に、研究会および研究テーマについての打ち合わせと、それぞれの絵本研究の知見について発表を行った。参加者：佐藤鮎美（佐賀医科大学助教）、佐藤朝美（東京大学大学院情報学環助教）、齋藤有（お茶の水女子大学大学院生）、石川由美子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）。

- 2) 2013年2月 研究知見のその後について、また、来年度からの共同研究のテーマおよび連携について話し合った。参加者：窪寺俊之（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）、中村磐男（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）、佐藤鮎美（佐賀医科大学助教）、佐藤朝美（東京大学大学院情報学環助教）、齋藤有（お茶の水女子大学大学院生）、石川由美子（聖学院大学人間福祉学科こども心理学科准教授）。

2. 絵本研究に関する講演活動

6月 東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座「子どもとデジタル絵本」についてパネリストとして講演 石川由美子（聖学院大学）、佐藤朝美（東京大学大学院情報学環助教）ほか。

3. 上尾市との連携活動

- 1) 10月20日 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の本学における開催に協力。当日プログラムの1コマを担当した。参加者である、小学校4年生から6年生を対象に、「iPadを利用した絵本作成」、ピックの絵本（朝倉民枝氏のアプリ提供）による絵本制作活動での子どもの取り組み支援と作成絵本の分析のあり方を検討した。参加者：中村磐男（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授）、石川由美子（准教授）、寺崎恵子（助教）、齋藤理砂子（特任講師）、井上知洋（特任講師）、川村（大橋）良枝（特任講師）（資料は、上尾市HP：<http://www.city.ageo.lg.jp/uploaded/attachment/11941.pdf>）
- 2) 3月 上尾市読書活動推進センターのブックスタート事業の母子への絵本支援に協力。「子どもの育ちと絵本」をテーマに、保護者への講演を行った。その後、同推進センター久我氏との連携協力の打ち合わせを行った。

4. 物語理解に諸困難を示す幼児・児童・生徒への発達および教育相談

4月から3月まで月2回程度の頻度で、相談を継続し、絵本を題材とした物語理解、読み書き理解に関する事例研究を行った。また、絵本での活動を行っている、本学学生の同好会「てふてふ」に対する、教育指導および、読み書き困難児への教育支援を行っている学生への教育指導を行っ

た。なお、2012年度は、絵本プロジェクトの本学メンバーは、新学科の課程申請業務に専念せねばならず、予定の研究活動は十分には進行できなかった。

2013年度

1. 「子どもの育ちと絵本研究会」の開催

1) 2013年6月29日

第1回絵本研究会「乳児期における絵本共有が母子関係に及ぼす効果の実証的検討：子どもに対する母親の行動の変化から」

佐藤 鮎美（京都橘大学健康科学部心理学科助教），阿久戸光晴（聖学院大学学長），中村 磐男（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授），寺崎 恵子（聖学院大学人間福祉学部児童学科准教授）

会場：聖学院大学2号館2109教室【参加者9名】

2) 2013年11月30日

第2回絵本研究会「育ちを支える絵本の力——スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』より」

佐治由美子（聖学院大学人間福祉学部児童学科特任講師），室伏加代子（おはなしボランティア）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室（第一会議室）【参加者32名】

3) 2014年3月8日

第3回絵本研究会「〈午前の部〉人形劇団「ふーせん劇場」／「〈午後の部〉オノマトペ（擬音語・擬態語）絵本読み合いワークショップ」

宇奈月やつ子（人形劇団ふーせん劇場主宰），金子浩介（シンセサイザー演奏），金子弥香（バイオリン演奏）

会場：聖学院大学2階エルビスホール【参加者 午前84名・午後51名】

2. 「絵本研究研修会」の開催

2013年7月25日

「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」〔共催：上尾市教育委員会（子ども読書活動支援センター），聖学院大学総合図書館〕

講演Ⅰ 阿久戸光晴（聖学院大学学長）「子どもの心にそっと寄り添う——お母さんたちへのメッセージ」

講演Ⅱ. 寺崎 恵子（聖学院大学人間福祉学部学児童学科准教授）「絵本にあそびが生まれるとき」

会場：聖学院大学エルピスホール（詳細は、Newsletter誌上報告②・③）

【参加者25名】

3. 絵本研究室（こころの語り場）活動

1) 子どもの育ちと絵本活動

聖学院大学図書館の協力を得て、近隣地域に居住する母子に対して、図書館および絵本研究室を開放することで、絵本を媒介とした子どもの育ちへのアドバイスと援助を行っている。この企画を通して、絵本が子どもの発達および保護者（母親）のケアに影響する過程を明らかにする。また、実際に絵本の読み活動をしている地域の活動家及び学生、保護者と子どもが寄り添う関係をいかに気づいていけるのか、築いた関係がお互いへどのような影響を与えるのかについても研究している。別企画として、大学図書館1階での読み聞かせ会（地域の絵本活動家、保護者、学生の連携）が学生の教授・学習にどのように影響するのかを明らかにしている。

2) 読み理解等を中心とした発達および教育相談と研究実践活動（実践研究）

①主に読み学習困難児への学生ボランティア活動への協力

②絵本の読み聞かせをととして臨床発達・教育相談研究実践の蓄積と知見の社会的貢献を目的としている。

3) 子どもの育ちと絵本研究会（水曜研究会）

おもに大学院生および学部生、教員などとの間で、子どもの育ちと絵本関わる研究知見についての研究会を定期的に行った。臨床発達心理学的なもののとらえ方、子どもに関わる関連領域の知見を広く知ること、お互いに自己研鑽しあい、学ぶことの楽しさと実践力の基盤を身につけるとともに、研究活動への発展を目標とした。

研究成果公開

1) ブックレット発行

「2013年度の絵本研究活動」を、総合研究所事務局および聖学院大学出版会の協力を得て、ブックレット『子どもの育ちと絵本①』（A5判43

ページ)として発行した。

2)『総合研究所Newsletter』誌上報告

- ①2013年度 第1回子どもの育ちと絵本研究会「乳児期における絵本共有が母子関係に及ぼす効果の実証的検討——子どもに対する母親の行動の変化から」, Vol.23-2, pp.22-24, 2013
- ②2013年度 子どもの育ちと絵本研修会「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」, Vol.23-2, pp.26-29, 2013
- ③2013年度 子どもの育ちと絵本研修会「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」実施結果報告, 総合研究所News, Vol.23-2, pp.36-38, 2013
- ④2013年度 第2回子どもの育ちと絵本研究会「育ちを支える絵本の力——スーザン・バーレイ『わすれられない おくりもの』より」, Vol.23-3, pp.28-30, 2014

2014年度

1.「子どもの育ちと絵本研究会」(講演会・ワークショップ)

1) 2014年6月21日

絵本研究講演会「絵本の読みあいにおける大人の役割とは?——幼児と母親の絵本の読みあい場面の観察研究からの示唆」

齋藤 有 (ルーテル学院大学総合人間学部助教)

会場: 聖学院大学2号館1階2108教室【参加者34名】

2) 2014年7月12日

絵本研究ワークショップ「ふれあい・ことば・あそび・ふわふわ ころころ」

加藤みや子 (舞踊家, 現代舞踊協会理事, 日本大学芸術学部講師)

会場: 聖学院大学体育館1階アリーナ【参加者66名】

3) 2014年11月29日〈午前〉

絵本研究ワークショップ「感性ことばで遊ぼう オノマトペがひらく物語の世界——宮澤賢治の『雪わたり』」

宇奈月やつ子 (人形劇団ふーせん劇場主宰)

会場: 聖学院大学エルピス館2階エルピスホール【参加者52名】

4) 2014年11月29日〈午後〉

絵本研究シンポジウム「絵本の「読み聞かせ」から「読みあい活動」へ——子どもの育ちに寄り添う楽しい読みの世界とは？ 読み手の読みの謎を紐解こう！」

石川由美子（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科教授），斎藤 有（ルーテル学院大学総合人間学部心理学科助教），宇奈月やつ子（人形劇団ふーせん劇場主宰）

会場：聖学院大学エルピス館2階エルピスホール【参加者37名】

2. 絵本研究室（こころの語り場 通称：絵本サロン）活動

実践研究，大学院生・学部生を対象とした実践教育および地域貢献を目標に，2013年と同様，下記の活動を継続している。

- 1) 子どもの育ちと絵本活動
- 2) 読み理解等を中心とした発達および教育相談と研究実践活動（実践研究）
- 3) 子どもの育ちと絵本研究会（水曜研究会）
- 4) 大学行事への参加

6月の「ホタル祭り」，11月のヴェリタス祭など，大学行事にあわせて，絵本サロンを開放して，イベントを実施している。この行事には，学部学生の同好会「てふてふ」が協力している。

研究成果公開

1) ブックレット発行

「2014年度の絵本研究活動」を，総合研究所事務局および聖学院大学出版会の協力を得て，ブックレット『子どもの育ちと絵本②』（A5判43ページ）として発行した。

2) 『総合研究所Newsletter』誌上報告

- ①2013年度 第3回子どもの育ちと絵本研究会「〈午前の部〉人形劇団「ふーせん劇場」／〈午後の部〉オノマトベ（擬音語・擬態語）絵本読み合いワークショップ」，Vol.24-1，pp.28-29，2014
- ②2014年度 子どもの育ちと絵本研究ワークショップ「ふれあい・ことば・あそび ふわふわ こころ」報告，Vol.24-1，pp.41-42，2014
- ③2014年度 子どもの育ちと絵本研究講演会「絵本の読みあいにおける大

人の役割とは？——幼児と母親の絵本の読みあい場面の観察研究からの示唆」実施結果報告，総合研究所News, Vol.24-1, pp.51-52, 2014

9 東日本大震災神学研究（キリスト教社会倫理研究）

（研究代表：藤原淳賀 聖学院大学基礎総合教育部教授）

2011年3月11日の東日本大震災の後，米国フラー神学大学院から「日本の教会を支援をしたい」という提案があった。フラーとの対話の中で，この大震災を神学的に捉え，信徒にわかる平易な言葉で神学を語り教会に仕える神学シンポジウムの必要が認識され，東日本大震災国際神学シンポジウムを開催することとなった。主催は主流派キリスト教を代表して聖学院大学，福音派キリスト教を代表して東京基督教大学，そして現場の支援連絡会である東日本大震災救援キリスト者連絡会（DRCnet）が行い，フラーは脇から支えたいということで共催という形をとった。主催団体から実行委員会が立ち上げられた。また趣旨に賛同してくださった協賛，後援団体から代表者会議が組織され，アドバイザリー・グループとなった。教派，教団を超えて参加を呼びかけ，2012年3月23日に「いかにしてもう一度立ちあがるか——これからの100年を見据えて（How can we start again ? Centurial Vision for Post-disaster Japan）」というテーマで，第一回東日本大震災国際神学シンポジウムが持たれた。これが3年間を通したテーマとなった。第二回シンポジウムが2013年3月27日に「苦難に寄り添い前に向かう教会（The Church: Embracing the Sufferers, Moving Forward）」をテーマとして持たれ，第三回シンポジウムが2014年2月15日，17日に「苦難を通し，壁を越えて，次の世代へ（Raisin Leaders through Sufferings beyond Walls）」をテーマとして行われた。またこの年は神戸でも同様のシンポジウムを2月13日に行った。

これらの毎年の国際神学シンポジウムに伴い，本学では2012年から東日本大震災神学研究を組織し，年数回の研究会を行い現在に至っている。なお，国際神学シンポジウムは今後もフラー神学大学院と共に継続されることになり，現在第四回国際神学シンポジウムの準備が進められている。

〈研究組織〉(2014年度時)

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
藤原 淳賀	聖学院大学基礎総合教育部教授	[研究代表]
柳田 洋夫	聖学院大学人文学部日本文化学科准教授	[研究員]
ブライアン・バード	聖学院大学総合研究所特任講師	[研究員]
高橋 義文	聖学院大学大学院客員教授	[研究員]
松本 周	聖学院大学基礎総合教育部助教	[研究員]
小松崎利明	聖学院大学政治経済学部政治経済学科助教	[研究員]
福島 裕子	青山学院大学准教授	[客員研究員]
平野 克己	日本基督教団代田教会牧師	[客員研究員]
品川 謙一	日本福音同盟	[客員研究員]

〈東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員〉

東京基督教大学：倉沢 正則，伊藤 天雄

聖学院大学：藤原 淳賀，山本 俊明 [11～13年度]，

木下 元 [14年度～]

東日本大震災救援キリスト者連絡会 (DRCnet)：中台 孝雄，榊原 寛，
高橋 和義 [11年度]，品川 謙一，松下 瑞子

〈東日本大震災国際神学シンポジウム代表者会議〉

グレン・スタッセン (フラー神学校)

ホアン・マルティネス (フラー神学校)

メアリー・ギヴン (フラー神学校)

小倉 義明 (聖学院キリスト教センター) [11年度]

一場茉莉子 (フラー神学校 (伝道師))

中台 孝雄 (日本福音同盟 (JEA))

安藤 能成 (日本同盟基督教団)

朝岡 勝 (日本同盟基督教団)

東野 尚志 (日本基督教団，聖学院大学)

道家 紀一 (日本基督教団)

加藤 誠 (日本バプテスト連盟)

濱野 道雄 (日本バプテスト連盟)

米内 宏明（日本バプテスト教会連合国分寺バプテスト教会）
三好 明（日本キリスト教会神学校）
伊藤 悟（青山学院大学宗教主任会）
川上 直哉（東北ヘルプ）
住吉 英治（いわき CERS ネット）
森谷 正志（仙台バプテスト神学校）
菊地 順（聖学院大学）
倉沢 正則（東京基督教大学）
広瀬 薫（東京基督教大学）
伊藤 天雄（東京基督教大学）
高橋 和義（DRCnet 東日本大震災救援キリスト者連絡会）
品川 謙一（DRCnet 東日本大震災救援キリスト者連絡会）
松下 端子（DRCnet 東日本大震災救援キリスト者連絡会）
大木 英夫（聖学院大学総合研究所）[11～12年度]
藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所）
山本 俊明（聖学院大学総合研究所）[11～13年度]
木下 元（聖学院大学）[13年度～]

2012年度（東日本大震災国際神学シンポジウム・同実行委員会・同代表者会議）
東日本大震災国際神学シンポジウム

実行委員会 4/4, 5/31, 7/27, 11/7, 12/14, 1/15, 2/22, 3/8
代表者会議 5/18, 7/20, 10/2, 12/14, 2/1, 3/4

(1) 2013年3月27日

第2回東日本大震災国際神学シンポジウム「苦難に寄り添い前に向かう
教会（The Church: Embracing the Sufferers, Moving Forward）」
会場：お茶の水クリスチャンセンター8階チャペル【参加者165名】

2013年度（東日本大震災国際神学シンポジウム・同実行委員会・同代表者会議）
東日本大震災国際神学シンポジウム

実行委員会 4/18, 5/30, 7/13, 8/23, 9/27, 11/7, 12/11, 1/10,
2/7, 2/28

代表者会議 4/19, 7/19, 9/27, 11/22, 1/10, 2/27

(1) 2014年2月15日, 17日

第3回東日本大震災国際神学シンポジウム「苦難を通し、壁を越えて、次の世代へ (Raising Leaders through Sufferings beyond Walls)」

会場:お茶の水クリスチャンセンター8階チャペル【参加者79名(2/15), 120名(2/17)】

2014年度(研究会・東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員会・同代表者会議)

東日本大震災国際神学シンポジウム

実行委員会 7/7, 9/19, 11/21, 1/9, 3/19

代表者会議 5/16, 10/24, 1/9

(1) 2014年6月27日

第1回東日本大震災神学研究会「デューク大学神学部主催 第1回「北東アジア和解クリスチャン・フォーラム (Christian Forum for Reconciliation in Northeast Asia)」の報告と検討」

藤原 淳賀(聖学院大学基礎総合教育部教授), 平野 克己(日本キリスト教団代田教会牧師), レスポンス: 福嶋 裕子(青山学院大学准教授)

会場: 聖学院新館[駒込] 2階集会室【参加者10名】

(2) 2015年2月6日

第2回東日本大震災神学研究会「北東アジアの和解に向けて——平和学の観点からの提言」

小松崎利明(聖学院大学政治経済学科助教)

会場: 聖学院新館[駒込] 2階集会室【参加者6名】

研究成果公開

各シンポジウムの報告は『聖学院大学総合研究所紀要』に掲載され、一部が英文書籍として再編され、聖学院大学出版会より発行された。

1) 第二回東日本大震災国際神学シンポジウム

『総合研究所紀要』56号, pp.45-213, 2013

Atsuyoshi Fujiwara, Brian Byrd eds., *Post-disaster Theology from Japan: How Can We Start Again? Centurial Vision for Post-disaster Japan*. 〈A Theology of Japan: Monograph Series 6〉 2013年3月1日発行

2) 第三回東日本大震災国際神学シンポジウム

『総合研究所紀要』58号, pp.19–170, 2014

Atsuyoshi Fujiwara, Brian Byrd eds., *The Church Embracing the Sufferers, Moving Forward: Centurial Vision for Post-disaster Japan: Ecumenical Voices*. 〈A Theology of Japan: Monograph Series 7〉 2014年3月31日発行

10 組織神学研究（神学学術研究）

（研究代表：阿久戸光晴 聖学院大学大学院教授）

明治以後の日本の知性は「神学なき近代化」によって特徴づけられている。その理由は日本の社会的状況や知的状況にも求められるであろうが、むしろ神学内部の問題であった。新しい世紀の始まり、新しいミレニアムの始まりにいま一度神学のアクチュアリティを問い直し、神学の復権に奉仕するために組織神学研究が始まった。2006年から2008年までは組織神学連続講座の開設や講演会、日韓神学者交流（日韓神学会議）などが行われた。また、2008年9月19日に韓国長老会神学大学校との間に交流協定が締結され、2009年3月に韓国長老会神学大学校と共催の第1回日韓神学者学術会議がソウルにて開催された。その後、共催校で交互に開催されている。2010年度から2012年度においては、長老会神学大学校との協定に基づき、日韓教会交流史研究内にて「日韓キリスト教会交流（関係）史に関する日韓共同研究」が行われた。2014年度からは日韓神学者学術会議を中心とした研究活動が行われている。

〈研究組織〉（2014年度時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
阿久戸光晴	学校法人聖学院理事長・院長，聖学院大学政治経済学部長兼 大学院政治政策学研究科長，学生総合支援センター所長，IR 室長・聖学院大学出版会長，聖学院大学総合研究所副所長兼 所長代行	〔研究代表〕

松本 周	聖学院大学基礎総合教育部助教 [研究代表補佐, 渉外担当]
姜 尚中	聖学院大学学長 [研究員]
高橋 義文	聖学院大学大学院客員教授, 聖学院大学総合研究所副所長 [研究員]
藤原 淳賀	聖学院大学基礎総合教育部教授 [研究員]
鄭 鎬碩	聖学院大学基礎総合教育部特任講師 [翻訳担当]
洛 雲海	聖学院大学客員教授 (日韓現代史研究), 長老会神学大学校 助教授 [在外] [研究員]

2012年度

第2回日韓神学者学術会議

(1) 2012年11月2日

聖学院大学・長老会神学大学校 第2回日韓神学者学術会議 「モルトマン神学の受容をめぐって」

会場：聖学院新館 [駒込] 3階会議室 開催担当：聖学院大学

講演①：「韓国におけるモルトマン受容とその理解」シン・オクス（長老会神学大学校教授）

コメント：藤原 淳賀（聖学院大学総合研究所教授）

講演②：「ラインホルド・ニーバーとユルゲン・モルトマン——モルトマンのニーバー批判」高橋 義文（聖学院大学大学院教授）

コメント：キム・ウネ（長老会神学大学校教授）

日本ではモルトマンの翻訳は多数なされているが、圧倒的な影響を受けたとまではいえない。韓国におけるモルトマンの強い影響に対して日本ではなぜそれほど影響をもっていないのか？ 日韓両国の神学をめぐって白熱した議論がなされた。

2013年度

第3回日韓神学者学術会議

(1) 2013年10月25日

聖学院大学・長老会神学大学校第3回日韓神学者学術会議「現代における苦難の問題」

会場：長老会神学大学校（ソウル） 開催担当：長老会神学大学校

講演①：「現代の大災難についての考察——技術文明による災難の神学的意味について」ヒョン・ヨハン（長老会神学大学校教授）

コメント：東野 尚志（学校法人聖学院理事）

講演②：「生き残りの者と死者の救済——東日本大震災後の『死の蔭の谷』の希望」阿久戸光晴（学校法人聖学院理事長・院長，聖学院大学学長）

コメント：ペ・ヨハン（長老会神学大学校教授）

(2) 2013年12月18日

学術講演会「教会と政治」金 明容（長老会神学大学校総長）

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室 主催：聖学院大学【参加者71名】

神の国のために働くには、神の国の諸類比を探すことが必要である。民主主義がその類比となり得よう。しかしそれは不完全であるので、弱点を克服し、発展させていかなければならない。最近の研究としてのガバナンス（Governance）は、この弱点の克服の対案となる可能性がある。教会の政治的責任は、神の国の類比を探し求め、神の国の諸類比を作り出し、これを政治的領域において、下から、神の民主主義を具現させることである。神政政治は上からであるが、教会の正しい道は下から始める。強要に基づくのではなく、対話と説得に基づく秩序形成である。粘り強い対話と説得の道を、国民に対し、言論界に対し、政党に対し、国家に対して求めていく。またその道が、教会の誤りをも指摘するなら教会は喜んでこれに応じなければならない。

2014年度

第4回日韓神学者学術会議（日韓神学シンポジウム2014）

(1) 2014年11月7日

聖学院大学・長老会神学大学校日韓神学シンポジウム2014〔第4回日韓神学者学術会議〕「いのちの尊厳の確立」

会場：聖学院大学ヴェリタス館1階教授会室 開催担当：聖学院大学【参加者100名】

セッションⅠ：「傷付いた魂へのスピリチュアルケア」窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授）

コメント：尹 哲昊 [ユン・チョルホ] (長老会神学大学校教授)

セッションⅡ：「生命の危機的時代にいのちの尊厳を確立するための神学的対案の模索」朴 成奎 [パク・ソンギュ] (長老会神学大学校助教授)

コメント：姜 尚中 (聖学院大学学長)

コメント：阿久戸光晴 (学校法人聖学院理事長・院長)

現代世界は利益や利便を追求するあまり、時にバランスを欠いて、私たちの存在の根本である「いのち」の事柄を見失ってしまう。2011年の東日本大震災・原発事故、また2014年の旅客船沈没事故から、両国にとって、「いのちの尊厳の確立」が緊要の課題であることを認識し、韓国・長老会神学大学校と日本・聖学院大学が協力し、主題について探求する一般公開のシンポジウム（第4回日韓神学者学術会議）を開催した。

研究成果公開

主題講演、コメントなどは『総合研究所紀要』に掲載されている。

- 1) 第2回神学者会議：『総合研究所紀要』55号, pp.73-158, 2013
- 2) 学術講演会「教会と政治」：『総合研究所紀要』58号, pp.237-254, 2014
- 3) 第4回日韓神学者学術会議：『総合研究所紀要』59号, pp.13-58, 2015

11 アクティブ・ラーニング研究（基礎総合教育研究）

(研究代表：小川 洋 聖学院大学政治経済学部政治経済学科・基礎総合教育部教授)

「アクティブ・ラーニング」という言葉は一義的な定義づけを許さない複合的な概念であるが、またそれは2つの異なる学修内容によって区別される。すなわちそれは「一般的なアクティブ・ラーニング」と「高次のアクティブ・ラーニング」である。かつては「アクティブ・ラーニング」という言葉自体が多くの大学人にとって馴染みのないものであったが、現在ではかなり一般的に理解されるようになってきているためである。その背景としては、2012年度末に中教審がアクティブ・ラーニングの重要性を指摘したことが挙げられている。そのため既に多くの大学でその必要性が認められているのみならず、実

際にカリキュラムへ導入しているところも少なくない。そのような状況下にあつて、本学においてもアクティブ・ラーニングの導入と実践は、ますます看過することのできない課題となつてきており、課題であるアクティブ・ラーニングの導入に関する問題は山積している。よつて、2013年度後半より始まつた本共同研究プロジェクトへの期待は大きい。

〈研究組織〉(2014年度時)

氏 名	所 属 ・ 職 名	[研究分担・構成員]
小川 洋	聖学院大学政治経済学部政治経済学科兼基礎総合教育部教授	[研究代表]
稲田 敦子	聖学院大学人文学部欧米文化学科教授	[副代表]
河島 茂生	聖学院大学政治経済学部政治経済学科准教授	[研究員]
鈴木 潔	聖学院大学政治経済学部政治経済学科准教授	[研究員]
木村 美里	聖学院大学基礎総合教育部特任助手	[研究員]
尾張 宏一	聖学院大学ラーニングセンター特任講師	[研究員]
齊藤 伸	聖学院大学基礎総合教育部ポストドクター	[研究員]
鈴木 幸	聖学院大学基礎総合教育部ポストドクター	[研究員]

2013年度(研修会)

(1) 2014年1月29日

アクティブ・ラーニング研修会〔聖学院大学FD委員会・教務課共催〕
 「アクティブ・ラーニングにどう取り組むか(講演とワークショップ)」
 菊池 重雄(玉川大学経営学部国際経営学科教授, 教学部長)
 会場: 聖学院大学4号館4階4402教室〔第一会議室〕, 4403教室〔第二会議室〕【参加者44名】

2014年度(研究会)

(1) 2014年6月23日

第1回アクティブ・ラーニング研究会
 「「新しい学力観」で義務教育はどう変わったか——大学教育への示唆」
 小川 洋(聖学院大学政治経済学科兼基礎総合教育部教授)

会場：聖学院大学4号館4階4402教室〔第一会議室〕【参加者18名】

大学の教員の多くは、入学してくる学生たちが大学に入るまでにどのような学習経験をしてくるのかに無頓着である。自身の教育経験をもとに、学生の知識不足や意欲低下を嘆く教員も少なくない。しかし、この20年ほどの間に、日本の初等中等教育は大きく変化してきている。近年、大学教育に求められている変革も、これらの変化と軌を一にしていることは理解されるべきである。今回はこの20年ほどの間の義務教育——とくに中学校教育に焦点を当て、「新しい学力観」あるいは「PISA型学力」をキーワードとして、学生たちの学校教育での学習経験がどのように変化してきたのかを確認した。また学生の学習環境についての他大学の試みについても触れ、現在、大学教育がどのような対応を求められているのかについて情報を共有する機会とした。

(2) 2014年12月15日

第2回アクティブ・ラーニング研究会〔聖学院大学FD委員会共催〕

「思考を動かす学習デザイン——認知、コミュニケーション、そして図書館」

河島 茂生（聖学院大学政治経済学科准教授）

会場：聖学院大学4号館4階4402教室〔第一会議室〕【参加者18名】

アクティブ・ラーニングは、教員が一方向的に話し続ける授業のカウンターであるといつてよい。その授業スタイルの背景にある構成主義などの理論を踏まえながら、また社会的背景についても触れながら、学習へと至る認知やコミュニケーションのありようを議論した。さらに、文部科学省の方針や図書館の存立意義についても確認した。

研究成果公開

2013年年度アクティブ・ラーニング研修会：

『総合研究所 Newsletter』Vol.23-3, p.47-49, 2013

2014年年度アクティブ・ラーニング研修会：

『総合研究所 Newsletter』Vol.24-1, p.37-38, 2014

12 日韓教会交流史研究

日韓キリスト教会交流（関係）史に関する日韓共同研究

（研究代表：康 仁徳 聖学院大学総合研究所名誉教授，松本 周 聖学院大学基礎総合教育部助教）

2008年9月19日に長老会神学大学校との相互交流協定が締結されたことをうけて、2010年度から2012年度までの聖学院大学と長老会神学大学校による3年間にわたる、「日韓キリスト教会交流（関係）史に関する日韓共同研究」が行われた。資料収集（2010年度から2011年度前半）、資料分析（2011年度後半から2012年度前半）、成果の公開（2012年度後半）の段階に分けての研究会、研究計画協議等、研究は計画的に進められた。

本研究の目的は、19世紀末に始まった日韓キリスト教会の関係が、1910年からの日韓併合期を経たことで、戦後の日韓関係にどのように影響を与えたのかを、日韓キリスト教会の対立と協力の側面から日韓双方の研究者によって検証し、それが現在の日韓関係においていかに位置づけられるかを明らかにすることにあった。その際に、日韓キリスト教会関係史を日韓併合期以前、併合期、独立後の3つの時期に区分し、併合期とその前後で日韓キリスト教会関係が変化した部分を検討し、それが戦後の日韓関係にいかに関与を及ぼしたかを考察した。（2012年度終了）

〈研究組織〉（2012年最終年時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
康 仁徳	聖学院大学総合研究所名誉教授，元大韓民国統一省長官	〔韓国教会の折衝・聞き取り調査〕
松本 周	聖学院大学基礎総合教育部助教	〔日本基督教団における韓国教会との関わり，日本の教会の韓国理解〕
宮本 悟	聖学院大学基礎総合教育部特任教授	〔南北教会の協力関係／北朝鮮軍事政策〕
高 萬松	聖学院大学総合研究所助教	〔植民地治下の韓国協会の研究〕 （2012年当時）
任 成彬	韓国長老会神学大学校教授	〔韓国における北朝鮮認識，日韓

		教会交流史] (2012年当時)
林	熙國	韓国長老会神学大学校教授 [韓国教会における日韓問題] (2012年当時)
李	致萬	韓国長老会神学大学校研究教授 [日韓キリスト教史] (2012年 当時)
松谷	基和	早稲田大学アジア研究機構研究助手 [植民地時代の資料分析] (2012年当時)

2012年度

(1) 2012年11月3日

聖学院大学・長老会神学大学校 第3回日韓キリスト教会の交流に関する日韓共同研究国際シンポジウム

主題「1945年以降のデモクラシー憲法と両国教会・世界情勢」

主催：聖学院大学総合研究所日韓現代史研究センター，長老会神学大学校

会場：聖学院新館 [駒込] 3階会議室

開会挨拶：柳 海龍 [ユ・ヘリョン] (長老会神学大学校教授，研究支援処長)

講演①：「1980年代における南北統一運動のための日本教会の役目と寄与」李 致萬 [イ・チマン] (長老会神学大学校研究教授)

コメント：東野 尚志 (聖学院大学総合研究所特命教授)

講演②：「1945年以降の北東アジアと教会——日本国憲法との関わりから」松本 周 (聖学院大学総合研究所助教)

コメント：安 教盛 [アン・ギョソン] (長老会神学大学校教授)

発表：「日韓会談反対運動と日韓教会交流——1960年代を中心として」高 萬松 (聖学院大学総合研究所助教)

議論は，日韓の両教会が互いに理解を深めていく必要があることを確認するものとなった。会議通訳は，白正煥 [ペク・ジョンファン] 牧師（東京神学大学大学院修了）が担当。1945年以降の韓国と日本の教会がどのような歴史認識と対社会理解によって歩んできたかを，相互に議論し検討する研究会となった。

研究成果公開

長老会神学大学校・聖学院大学共同研究「日韓教会交流史」特別号：『総合研究所紀要』55号別冊（2013年3月28日発行）

13 EUの総合的研究

EUの総合的研究／4つの視点から——ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義

（研究代表：大木雅夫 聖学院大学大学院客員教授，田中 浩 聖学院大学大学院客員教授）

本研究は、2005年より「ヨーロッパ統合の理念と実態——日本の対EU政策に向けて」という研究テーマで始まった。2011年度前期は「グローバル化・文化総合分野」にて研究を行い、2011年度後期より、2013年度までの期間は、日本学術振興会科学研究費補助金の基盤研究(B)「EUの総合的研究／4つの視点から——ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義」（課題番号：23330034，研究代表：大木雅夫）の助成にて運営された。EU統合の実態を歴史的、文化的な比較的方法をもって正確に理解し、日本のEU政策への提言も目標にした研究である。EU欧州連合は、戦後世界の平和と繁栄を目指して創設された国際連合に並び立つ巨大な組織でありながら、一部には連邦形成を目指すほどの独特な超国家的組織である。それゆえEU研究には、伝統的な国際法の研究・教育では足りず、我が国における数少ないEU法研究者を組織化しなければEU認識において大小の諸外国に後れをとること必定であることから、歴史的・比較的方法によるEUの客観的認識を基礎にして、日本の対EU政策の方向付けに一定の寄与をしたといえる。（2013年度終了）

〈研究組織〉（2013年最終年時）

氏 名	所 属 ・ 職 名	〔研究分担・構成員〕
大木 雅夫	聖学院大学大学院客員教授	〔研究代表〕
田中 浩	聖学院大学大学院客員教授	〔研究代表〕
穴見 明	大東文化大学法学部教授	〔研究員〕
上原 史子	成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員	〔研究員〕

岡本 和彦	東京成徳大学国際言語文化学科教授 [研究員]
田中 拓道	一橋大学社会学研究科准教授 [研究員]
中村 健吾	大阪市立大学大学院経済学研究科教授 [研究員]
廣瀬真理子	東海大学教養学部人間環境学科教授 [研究員]
小沢 奈々	日本学術振興会特別研究員 [研究協力者]
鈴木 幸	聖学院大学基礎総合教育部ポストドクター [研究協力者]

2012年度の研究報告（研究会）

(1) 2012年7月31日

第1回EUの総合的研究会「3.11とEU・EU諸国の気候変動・エネルギー問題」

上原 史子（成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者8名】

(2) 2013年1月28日

第2回EUの総合的研究会「大陸型福祉国家の変容——オランダの労働・家族・社会保障」

廣瀬真理子（東海大学教授）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者9名】

2013年度（研究会）

(1) 2013年12月16日

第1回EUの総合的研究会「欧州統合の究極にある「人間の尊厳」について」

大木 雅夫（聖学院大学大学院客員教授）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室【参加者7名】

(2) 2014年2月15日（豪雪のため中止）

第2回EUの総合的研究会「ユーロ危機以降のEUによる金融・経済・社会政策の到達点」

中村 健吾（大阪市立大学大学院教授）

会場：聖学院新館 [駒込] 2階集会室

研究成果公開

(1) 2012年第1回EUの総合的研究会

「3.11とEU・EU諸国の気候変動・エネルギー問題」

『総合研究所Newsletter』 Vol.22-2, p.23, 2012.

(2) 2012年第2回EUの総合的研究会

「大陸型福祉国家の変容——オランダの労働・家族・社会保障」

『総合研究所Newsletter』 Vol.22-3, p.21-22, 2012.

(3) 2013年第1回EUの総合的研究会

「欧州統合の究極にある「人間の尊厳」について」

『総合研究所Newsletter』 Vol.23-3, p.34, 2013.

(3) 『聖学院大学総合研究所紀要』目次

(A5判並製，年2回発行，54号～59号)

2014年度の58号より英文のContentsとAbstractを巻末に掲載している。

紀要54号（332頁，2012年度）

巻頭言 大震災後の日本社会の再建における根本課題

阿久戸光晴

I

R・ニーバー政治倫理学とM・ヴェーバー歴史社会学

——民主制論をめぐる（試論）

田中 豊治

II

「東日本大震災国際神学シンポジウム」と発表論文について

藤原 淳賀

東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員会

東日本大震災国際神学プログラム

大災害時におけるキリスト教的応答——教会史から学ぶ

ホァン・マルティネス／豊川 慎・訳

同情する苦しみ，また不正義との対決としての十字架

グレン・スタッセン／河野克也・訳

日本キリスト教史における東北

山口 陽一

神に迫られた改革——日本を神学する

大木 英夫

神の時を捉える——神のわざへの参与

藤原 淳賀

生と歴史の意味の開示と成就

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第2章

ラインホルド・ニーバー／鈴木 幸・訳

III

冷戦とベルギー・キリスト教民主主義政党

——分裂危機を念頭に
金明容著「モルトマン（J. Moltmann）神学の貢献と論争点」の翻訳

松尾 秀哉

高 萬松・訳

ラ・フォン・ド・サン＝ティエンヌ『考察』の研究（1）

——出版の背景——

田中 佳

癒しを与える空間を後世に遺す

——オクタヴィア・ヒル著「Our Common Land」の翻訳

木村 美里

IV

Footprints of Interchurch Exchange between Korea and Japan:

With Special Reference to the Situation of the Two Countries from 1945

to 1967, the Year of the Mission Agreement

Mansong Ko

紀要55号（486頁，2012年度）

巻頭言 大震災後の東アジアおよび世界の平和の構築の課題

阿久戸光晴

I

ラインホルド・ニーバーと社会福音運動

高橋 義文

II

第2回日韓神学者会議「モルトマン神学の受容をめぐる」

はじめに

開会礼拝（エレミヤ・9-10／ヨハネ2・19-22）

左近 豊

韓国におけるモルトマン受容とその理解

申 玉秀／洛 雲海・訳

21世紀における北東アジアのキリスト教界の対話のために

——「韓国におけるモルトマン受容とその理解」への応答

藤原 淳賀

モルトマンのニーバー批判をめぐる

高橋 義文

ラインホルド・ニーバーとユルゲン・モルトマン

——「モルトマンのニーバー批判をめぐる」に対する論評

金 恩恵／洛 雲海・訳

* * *

歴史の可能性と限界

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第3章

ラインホルド・ニーバー／高橋義文・訳

韓景職牧師の民主主義観

——日韓教会交流（関係）の歴史研究（第4回）

高 萬松

III

ベルギーの政治空白と連邦化

松尾 秀哉

韓国におけるクーデターの失敗と成功の要因

宮本 悟

朝鮮民主主義人民共和国とベトナム戦争（1）

宮本 悟

モルトマン（J. Moltmann）の靈性神学

金 明容／高 萬松・訳

モルトマン（J. Moltmann）の三位一体論

金 明容／高 萬松・訳

吉満義彦の思想

——その「近代批判」と「近代超克」をめぐる一考察

村松 晋

ラ・フォン・ド・サン＝ティエンヌ『考察』の研究（2）

——物語画の衰退

田中 佳

公立学校教員と全体の奉仕者

——国旗国歌訴訟における全体の奉仕者の機能と新たな解釈の可能性

安原 陽平

2011年度大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

紀要55号別冊（169頁，2012年度）

長老会神学大学校・聖学院大学共同研究「日韓教会交流史」特集号

1945年以降のデモクラシー憲法と両国教会・世界情勢

はじめに

I

1980年代における南北統一運動のための日本教会の役目と寄与 李 致萬

李致萬「1980年代における南北統一運動のための

日本教会の役目と寄与」へのコメント 東野 尚志
日韓会談反対運動と日韓教会交流——1960年代を中心にして 高 萬松

II

1945年以降の北東アジアと教会——日本国憲法との関わりから 松本 周
松本周「1945年以後の北東アジアと教会

——日本国憲法との関関係で」に対するコメント アン・ギョソン
アン・ギョソン教授コメントへの応答 松本 周

III・IV

(I・IIの内容のハングルへの翻訳を掲載)

紀要56号 (358頁, 2013年度)

巻頭言 死についての思い巡らし 高橋 義文

I

ラインホルド・ニーバーの思想の今日性 佐久間 重

II

「第二回東日本大震災国際神学シンポジウム」報告 前書き

藤原 淳賀・東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員会

「第二回東日本大震災国際神学シンポジウム」プログラム

主題講演

「神の忍耐の時」の中で、苦難の救い主に仕える

リチャード・J・マオ／岩田三枝子・訳

パネルディスカッション「苦難に寄り添い前に向かう教会」

キリスト教大学の行うボランティアとは何か

——直面する三つの問い

伊藤 悟

震災ボランティア活動と若者の宗教心の発達

岡村 直樹

カトリック教会の経験から

幸田 和生

心理臨床家として考えさせられていること

藤掛 明

分科会報告

- A 東北のハリストス正教会
—— 132年前のニコライの旅を辿る 山口 陽一
- B 被曝地フクシマに立つ教会
—— マオ博士の講演に対する被災地からの応答 川上 直哉
- C 福島放射能汚染の現状と課題 木田 恵嗣
- D 大震災と心のケア——喪失と怒りへのケア 窪寺 俊之
- E 震災における教派・教会をこえた出会い 吉田久仁子
- F 3・11から学ぶキリスト者の災害応答 ジョナサン・ウィルソン
- G 被災地の子ども支援 米内 宏明
子どもの心のゆくえ 平田 美保
- H 脱核の倫理の探求——日独戦後史をめぐる一断想 福嶋 揚
- I 弔いと宗教間協力——「弔い」と震災後の展開について
内陸部地震被災地域の牧師として 井形 英絵
- J 国民統合、自衛隊と教会 安藤 能成
- K 震災ボランティアにおける学生の意識 小川 真
日本基督教団東北教区被災者支援センター エマオの歩み 野田 沢
全体会「教派教団を越えた働きについて」
東日本大震災下におけるキリスト者の連携 川上 直哉
閉会礼拝
説教「嘆きの心に賛美の衣をまとうて」イザヤ書第61章1-4節
東野 尚志

* * *

恵みと高慢との葛藤

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第5章

ラインホルド・ニーバー／柳田洋夫・訳

III

新渡戸稲造の世界——その植民地観をめぐって 鵜沼 裕子

北村透谷の政治的バイロン熱

——「虚榮村の住民」「兆民居士安くにかある」における

バイロン論及を中心に 菊池 有希

コラージュ作品から読み取れる「生」への願望

- 「死にたい」と訴える学生のケースから
カッシーラーの芸術論
——「シンボル形式」としての芸術の位置づけを巡って
- 竹淵 香織
齊藤 伸

紀要56号別冊 (70頁, 2013年度)

隅谷三喜男先生召天10周年記念号

経済学から社会科学へ——Moral Philosophyの復元へ

はしがき

【鼎談】

経済学から社会科学へ——Moral Philosophyの復元へ

隅谷三喜男
中西 洋
大木 英夫

学究のはじまり——自由主義神学・バルト神学・マルクス主義

「賃労働の理論」と『日本賃労働史論』——大河内社会政策論を越えようとして
ハイマン理論に欠けたもの

——社会政策の「主体」と、主体性を持った

「社会的存在」としての賃労働者

労働者の形成史——「労働者と労働力の結合体」として〈賃労働〉をとらえる。

「賃労働〔者〕の賃金論」と「労働者の生活過程」への注目

キリスト教史に立ち返ってみる「信仰」と「倫理」

日本的共同体の倫理と「罪」の問題

経済学とMoral Philosophyの再考へ

紀要57号 (271頁, 2013年度)

巻頭言 人間の「いのちの尊厳」理念の確立を目指す

阿久戸光晴

I

新聞記事からみる「神学者」ラインホルド・ニーバー

澤井 治郎

II

知恵と恵みと力（歴史の成就）

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第4章

ラインホルド・ニーバー／松本 周・訳

ポール・T・P・ウォン博士の研究について

窪寺 俊之

意味中心カウンセリング

ポール・ウォン／千葉征慶・訳

III

H・B・ストウ『アンクル・トムの小屋』における

トムのキリスト教について

森田美千代

モルトマンの万有救済論と救済論の新しい地平

金 明容／高 萬松・訳

朝鮮民主主義人民共和国とベトナム戦争（2）

宮本 悟

IV

Korean and Japanese Church Relations After 1945:

The Path to Reconciliation

Mansong Ko, Brian Byrd

2012年度大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

紀要57号別冊（137頁，2013年度）

国際シンポジウム

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」特集号

——ラインホルド・ニーバーとキリスト教現実主義

序言

高橋 義文

I

開会の辞

阿久戸光晴

審判，自由，責任——21世紀のためのキリスト教現実主義

ロビン・W・ラヴィン／高橋義文・訳

ラヴィン教授への応答

R・ニーバーの現実的意義と限界

千葉 眞

預言者思想に立つキリスト教現実主義

西谷 幸介

グローバリゼーションの時代における平和に対する韓国教会の課題

——ニーバー的現実主義を超えるエキュメニカルな社会倫理を求めて

イム・ソンビン／高橋義文・訳

イム教授への応答

文明の衝突の時代に

東方 敬信

責任ある教会

——明確なキリスト教的性格を持ち、より広い世界に関わる教会

藤原 淳賀

シンポジウムを終えて——付記

阿久戸光晴

II

アメリカにおける教会と国家——憲法、文化、そして神学

ロビン・W・ラヴィン／左近 豊・訳

ラインホルド・ニーバーとキリスト教現実主義

ロビン・W・ラヴィン／高橋義文・訳

キリスト教現実主義と新しい現実

ロビン・W・ラヴィン／森田美千代・斎藤 薫・訳

紀要58号 (380頁, 2014年度)

巻頭言 哲学と文献学の間——人文学の意味

清水 正之

I

「第三回東日本大震災国際神学シンポジウム」報告 前書き

藤原 敦賀・東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員会

「第3回東日本大震災国際神学シンポジウム」プログラム

主題講演 (第1日目 2月15日)

イエスの示したように苦しみ、また仕える——災害後の意味形成について

ホアン・マルティネス／加藤喜之・訳

パネルディスカッション「震災への関わりと震災の語り」

関係論に立つ福祉実践	稲松 義人
カリタスのアニメーション活動	菊地 功
福音の包括的なミニストリー	倉沢 正則
日本バプテスト連盟と東日本大震災	濱野 道雄

分科会1 心理カウンセリング的配慮

新しい物語と儀式をつくる	藤掛 明
心と魂のストレスケア	堀 肇

分科会2 支援と宣教（宣証）

救援と救済のジレンマ	鈴木 真
宮城宣教ネットワーク	大友 幸一

分科会3 死者儀礼・伝統習俗とどう向き合うか

死者儀礼・伝統習俗とどう向き合うか	吉田 隆
-------------------	------

分科会4 原発と震災

原発と震災	木田 恵嗣
「逃げたいのに逃げられない」現実と、どう向き合うか	川上 直哉

分科会5 在留外国人と震災

“見えなくされている人びと”——在日外国人被災者	佐藤 信行
--------------------------	-------

分科会6 次期災害に備える

地域教会防災ネットワークづくり	栗原 一芳
災害対応チャプレン	岩上 敬人

全体会

災害が教会に教えること

デービット・ボーアン／松下瑞子・訳 品川謙一・監修

主題講演（第2日目 2月17日）

あなたは誰の足を洗うのか——苦難のただ中でリーダーを起こす

ジョージ・カランティス／柳田洋夫・訳

テーブルディスカッション発題

土の器／キリストという宝	近藤 愛哉
スローワーク	佐藤 真史
キリスト者学生として地域社会で福音に生きる	桑島みくに

* * *

近代文化における人間の運命をめぐる論争——ルネサンス

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第6章

ラインホルド・ニーバー／鈴木 幸・訳

近代文化における人間の運命をめぐる論争——宗教改革

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第7章

ラインホルド・ニーバー／高橋 義文・訳

II

教会と政治

金 明容／洛 雲海・訳

S・ハワースのキリスト教倫理における「苦難」の位置づけ

——共同体における障がい者への配慮をめぐる——

鬼頭 葉子

カッシーラーにおける文化哲学としての哲学的人間学の理念

——シェラーの人間学との比較的視点から——

齊藤 伸

ラインホルド・ニーバーの神話・象徴論

——歴史と超歴史の弁証法的次元の表現——

五十嵐成見

III

古英語の語順と空主語構文

小林 茂之

Contents

Abstract

紀要59号 (380頁, 2014年度)

巻頭言 戦後70年を経て思う

牛津 信忠

I

「第四回日韓神学者学術会議」について

阿久戸光晴

傷ついた魂へのスピリチュアルケア

窪寺 俊之

窪寺俊之「傷ついた魂へのスピリチュアルケア」に対するコメント

霊的癒し（スピリチュアルケア）

尹 哲昊／洛 雲海・訳

生命の危機的時代にいのちの尊厳を確立するための神学的対案の模索

朴 成奎／洛 雲海・訳

朴成奎先生「生命の危機的時代にいのちの尊厳を

確立するための神学的対案の模索」に対するコメント

どのようにして十字架と復活のもとで永遠のいのちは実現されるのか

姜 尚中

いのちの尊厳を確立するための対話

——東アジア共同体形成の基礎づくりのために

阿久戸 光晴

* * *

真理を持っているが、持っていない

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第8章

ラインホルド・ニーバー／高橋義文・柳田洋夫・訳

神の国と正義ための戦い

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第9章

ラインホルド・ニーバー／柳田洋夫・訳

歴史の終わり

『人間の本性と運命』第2部「人間の運命」第10章

ラインホルド・ニーバー／高橋義文・訳

II

M・L・キングの神人共働論

菊池 順

ドラッカーの非営利組織マネジメント理論の再調整

古橋 亮

III

聖学院大学総合研究所活動報告（2012年～2014年）

2013年度大学院博士論文・修士論文テーマ一覧

Contents

Abstract

(4) 『聖学院大学総合研究所Newsletter』

(B5判, 年3回発行, 22巻～24巻)

Vol.22-1, 2012 (45頁)

巻頭言 聖学院大学総合研究所の目ざすもの

窪寺 俊之

【研究ノート】

Siri

Justin Nightingale

韓国教会のデモクラシーへの寄与——「解放」後の長老派教会を中心に

高 萬松

Learner-centered extensive reading アクティビティの実践

中川 英幸

【報告】

ミュッセの詩学——スリジー2010

(ミュッセ生誕200年記念国際シンポジウム日録)

鹿瀬 颯枝

2011年度 牧会心理研究会報告

藤掛 明

2011年度 グリーフケア・ルーム年報

藤掛 明

〈児童〉における「総合人間学」の試み研究会

藤田明氏報告「安らぎを感じさせる発音・発声」

田澤 薫

第9回ピア・スーパービジョン

青木優子, 奈良部清香, 宮崎和香, 山谷謙介, 大島知子

福祉のこころ研究会講演会

日野原重明氏講演「いのちの教育 親子の絆」

東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員会報告

東日本大震災国際神学シンポジウム

「いかにしてもう一度立ち上がるか——これからの100年を見据えて」

総合研究所News

第9回ピア・スーパービジョン (アンケート結果)

東日本大震災国際神学シンポジウム (アンケート結果)

福祉のこころ研究講演会「いのちの教育 親子の絆」(アンケート結果)
スピリチュアル・ケア講演会「無心とスピリチュアリティ」(アンケート結果)
日本臨床死生学会第18回大会 大会事務局報告

Vol.22-2, 2012 (45頁)

巻頭言 絆の結節点からの発想の広がり求めて 牛津 信忠

【研究ノート】

賀川豊彦から影響を受けた一人の韓国人牧師——姜元龍を中心にして 高 萬松

デモクラシー、ピューリタニズム、ミルトン——私の研究関心と研究主題 豊川 慎

環境思想の継承におけるオクタヴィア・ヒル

——英国ナショナル・トラストとの関係をめぐって 木村 美里
政治的神話の起源と構造——カッシーラー『国家の神話』第十八章の考察 齊藤 伸

【報告】

児童学研究

小川洋氏報告「カナダ諸州における学力保障政策」 田澤 薫
相川徳孝氏報告「キリスト教保育の実践と課題」 田澤 薫

臨床死生学研究講演会「信仰者にとっての心の病」(関根義夫)

カウンセリングシンポジウム「心の世界を物語に学ぶ」

EUの総合的研究

上原史子氏報告「3.11とEU・EU諸国の気候変動・エネルギー問題」
ラインホルド・ニーバー研究

高橋義文氏報告「ラインホルド・ニーバーと社会福音運動」

柳田洋夫氏報告「ラインホルド・ニーバー『人間の本性と運命』第2巻」

第1章「人間の運命と歴史」について

高橋義文氏・鈴木幸氏報告

「歴史の意味の開示と成就，歴史の可能性と限界

——ニーバー『人間の運命』第2章および第3章の議論を追う」

第10回ピア・スーパービジョンの報告 宮崎 和香

総合研究所 News

カウンセリング講演会「信仰者にとっての心の病」(アンケート結果)

カウンセリングシンポジウム「心の世界を物語に学ぶ」(アンケート結果)

日韓学術セミナー「朝鮮半島情勢と北東アジアの安全保障」(アンケート結果)

第10回ピア・スーパービジョン(アンケート結果)

スピリチュアル・ケア講演会「ホスピス医療の現場から」(アンケート結果)

Vol.22-3, 2012 (37頁)

巻頭言 『オバマを読む』を読む

高橋 義文

【研究ノート】

Close Your Textbooks

Justin Nightingale

30 Minutes

Justin Nightingale

韓国長老派教会におけるニーバー理解——韓国基督教長老会を中心にして

高 萬松

【報告】

臨床死生学研究講演会「遅れてくる了解」(大貫 隆)

スピリチュアル・ケア研究講演会

「ホスピス医療の現場から」(山形謙二)

「ホスピスケアの目指すもの——ケアタウン小平の取り組み」(山崎章郎)

ラインホルド・ニーバー研究

田中豊治報告「R. ニーバー政治倫理学と M. ヴェーバー歴史社会学

——民主制論をめぐる」

佐久間重氏報告「ラインホルド・ニーバーの思想の今日性」

安酸敏眞氏報告「ニーバー再考——その歴史理解を中心に」

EUの総合的研究

廣瀬真理子氏報告

「大陸型福祉国家の変容——オランダの労働・家族・社会保障」

【書評】

『マーティン・ルーサー・キング——共生社会を求めた牧師』

森田美千代

総合研究所News

日韓の研究交流——2つのセミナー

日本臨床死生学会第18回大会

臨床死生学研究講演会「遅れてくる了解」(アンケート結果)

スピリチュアル・ケア研究講演会

「ホスピスケアの目指すもの」(アンケート結果)

小学校英語指導法セミナー

「「こうやって教えよう小学校英語」現場からの提案」(アンケート結果)

臨床死生学研究シンポジウム

「ヘンリー・ナウエンに学ぶ苦しみと希望：祈り、共苦、コミュニティ」

(アンケート結果)

Vol.23-1, 2013 (41頁)

巻頭言 「文化と超越」再考

清水 正之

【研究ノート】

「日本語予備課程」の歩み

棚橋 明美

東京経済大学「学習センター」を訪問して

鈴木 幸

「アクティブラーニング」共同研究のはじめに

——「大学改革セミナー」報告とともに

齊藤 伸

【報告】

「永続する精神」の雲を見上げて

——公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務所訪問の報告

木村 美里

2012年度 牧会心理研究会報告

藤掛 明

2012年度 グリーフケア・ルーム年報

藤掛 明

「〈児童〉における「総合人間学」の試み」研究会

吉岡晶子氏「子どもたちと私」講演

田澤 薫

第11回ピア・スーパービジョン

篠崎洋治, 河副美春, 山田裕太

スピリチュアル・ケア研究講演会「在宅ホスピスケアと医の原点」(川越 厚)

ラインホルド・ニーバー研究

ラヴィン教授特別講義「キリスト教現実主義と新しい現実」

国際シンポジウム

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」

総合研究所News

第11回ピア・スーパービジョン（アンケート結果）

第2回東日本大震災国際神学シンポジウム

「苦難に寄り添い前に向かう教会」（アンケート結果）

スピリチュアル・ケア研究講演会

「在宅ホスピスケアと医の原点」（アンケート結果）

ラインホルド・ニーバー研究国際シンポジウム

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」（アンケート結果）

Vol.23-2, 2013（49頁）

巻頭言 安全と安心

標 宣男

【研究ノート】

第19回映画英語教育学会全国大会研究発表

「映画のシナリオを最大限に活用した英語指導法：ゴーストを使って」

メイス みよ子

イラン・イスラム共和国への訪問

——米国との関係改善を模索し始めた中東の大国

宮本 悟

アクティブラーニングの導入に向けた一般的考察

——河合塾FDセミナーの提言を受けて

齊藤 伸

第4回東日本大震災神学研究会発表

「震災を通して考える日本の教会の『公会』性について」

朝岡 勝

活用しながら後世に日本の心を伝える

——公益財団法人日本ナショナルトラストの事務所訪問の報告

木村 美里

【報告】

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

第1回子どもの育ちと絵本研究会

「乳児期における絵本共有が母子関係に及ぼす効果の実証的検討：

子どもに対する母親の行動の変化から」

2013年 牧会サマーセミナー報告

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究研修会

「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」

臨床死生学研究講演会「がん哲学外来」（樋野興夫）

カウンセリングシンポジウム「心の世界を絵本に学ぶ」

第12回ピア・スーパービジョンの報告

総合研究所News

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究研修会

「子どもの育ちと絵本2——声の森からことばへ」（アンケート結果）

臨床死生学研究講演会「がん哲学外来」（アンケート結果）

カウンセリングシンポジウム「心の世界を絵本に学ぶ」（アンケート結果）

第12回ピア・スーパービジョン（アンケート結果）

東日本大震災国際神学シンポジウム2013年度準備報告

Vol.23-3, 2013（64頁）

巻頭言 ダ・ヴィンチ「聖アンナと聖母子」礼讃

吉田 博司

【研究ノート】

ツウウェイ・イマージョンでの協同学習の研究

——聖学院アトランタ国際学校の取り組み

東 仁美

「英語で教える英語授業」についての一考察

チェンバレン 暁子

ラーニングコモンズに関する一考察

鈴木 幸

Into The Wild: Seigakuin Primary School, 2013

Justin Nightingale

大学におけるキャリア教育と「社会人基礎力」

酒井 俊行

大学教育における、サービスラーニング導入の可能性について

川田 虎男

【報告】

スピリチュアルケア研究講演会（細井 順）

「いのちを育むホスピスケア——死にゆく人たちに生かされて」

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

第2回子どもの育ちと絵本研究会

「育ちを支える絵本の力

——スーザン・バーレイ『わすれられない おくりもの』より」報告

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第1回研究会

高橋義文氏による「ニーバーの宗教改革論

——ニーバー『人間の運命』第7章「近代文化における人間の運命を

めぐる論争——宗教改革」に学ぶ」報告

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第2回研究会

澤井治郎氏による

「新聞記事からみる『神学者』ラインホルド・ニーバー」報告

EUの総合的研究

「4つの視点から——ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義」

第1回研究会

大木雅夫氏による「EUの基礎としての『人間の尊厳』」報告

臨床死生学研究講演会（石丸昌彦）「こころの健康とたましいの健康」報告

金明容総長学術講演会「教会と政治」報告

スピリチュアルケア研究講演会（大西秀樹）

「がん医療の現場からみた心の問題」報告

「〈児童〉における「総合人間学」の試み」第2回研究会

市村和子氏による「子どもの思いや願いを生かした授業づくり

——生活科、国語科を中心に」報告

「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第3回研究会

松本周氏・柳田洋夫氏による「ニーバーの「恵み」の議論

——『人間の運命』第4章「知恵・恵み・力」

および第5章「恵みと高慢の葛藤」をめぐって」報告

アクティブラーニング研修会「アクティブラーニングにどう取り組むか」報告

「〈児童〉における「総合人間学」の試み」第3回研究会

坂本佳代子氏による「児童福祉実践論における行為法の可能性

——ゼミ活動での展開」報告

第3回東日本大震災国際神学シンポジウム

「苦難を通し、壁を越えて、次の世代へ」報告
「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第4回研究会
安酸敏眞氏による「ニーバーのルネサンス理解の思想史的考察」報告

【書評】

『アメリカ黒人の歴史——奴隷貿易からオバマ大統領まで』 森田美千代

総合研究所News

スピリチュアルケア研究講演会

「いのちを育むホスピスケア」（アンケート結果）

臨床死生学研究講演会「こころの健康とたましいの健康」（アンケート結果）

長老会神学大学校金総長学術講演会「教会と政治」（アンケート結果）

Vol.24-1, 2014 (56頁)

巻頭言 私の中の「近代」を再考する 谷口隆一郎

【研究ノート】

「JS Pre-A1 ①・②・③」の表の作成経緯と使用の際の留意点：

小学校英語CAN-DOリスト 藤原真知子・相羽千州子

学士課程が育成すべき人材像

——「大学改革セミナー」の報告とともに 齊藤 伸

古代文学と考古学の連携を探って 渡邊 正人

オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響

——キャロライン・ヒルをめぐる 木村 美里

クリスチャンソーシャルワーカーのバーンアウトに関する一考察

越智 裕子

【報告】

第13回ピア・スーパービジョン報告 河副 美春

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

第2回子どもの育ちと絵本研究会

「〈午前の部〉人形劇団「ふーせん劇場」／〈午後の部〉オノマトペ（擬音語・擬態語）絵本読み合いワークショップ」報告

2013年度 牧会心理研究会報告 藤掛 明

「〈児童〉における「総合人間学」の試み」研究会

広瀬歩美氏「生涯にわたる健康管理の重要性と次世代への影響」報告
スピリチュアルケア研究講演会（下稲葉康之）

「死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか——ホスピスの現場から」
報告

アクティブ・ラーニング研究会

「〈新しい学力観〉で義務教育はどう変わったか——大学教育への示唆」報告
東日本大震災神学研究会

「デューク大学神学部主催

第1回「北東アジア和解クリスチャン・フォーラム (Christian Forum for
Reconciliation in Northeast Asia)」の報告と検討」報告

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究ワークショップ

「ふれあい・ことば・あそび ふわふわ こころ」報告

ラインホールド・ニーバー研究会

『人間の本性と運命』第2巻〈人間の運命〉第9章

〈神の国と正義のための戦い〉(The Kingdom of God and The Struggle for
Justice) について」報告

スピリチュアルケア研究会

「スピリチュアル・アセスメントの困難性」報告

総合研究所 News

スピリチュアルケア研究講演会

「死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか」（アンケート結果）

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究講演会

「絵本のよみあいにおける大人の役割とは？」（アンケート結果）

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究会

「ふれあい・ことば・あそび ふわふわ こころ」（アンケート結果）

Vol.24-2, 2014 (42頁)

巻頭言 「文化」の政治性をめぐって

清水 均

【研究ノート】

Factors influencing English in Japan

Mary Ann Regala Gutierrez

スザンヌK.ランガーの言語論における起源の問題

——その基本思想と方法論的転回めぐって

齋藤 伸

アクティブラーニングの実践例として読む『ハリー・ポッター』 鈴木 幸

【報告】

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究講演会

「絵本の読みあいにおける大人の役割とは？～幼児の母親の絵本の読みあ
い場面の観察研究からの示唆～」報告

牧会サマーセミナー

「教会における人間関係」報告

第2回スピリチュアルケア研究会（東京スピリチュアル研究会〔共催〕）

「スピリチュアルケアの可能性」報告

第1回福祉のこころ研究会（第14回ピア・スーパービジョン〔第1部共催〕）

「福祉のこころを育む

——スーパービジョン体験～バイザーとして、バイザーとして」報告

第14回ピア・スーパービジョン報告（第1回福祉のこころ研究会

〔第1部のみ〕・SWnet（聖学院ウェルフェアネット）共催）

スピリチュアルケア研究講演会（関 正勝）

「検査社会の到来 “健康” が義務となる社会」報告

第4回日韓神学者学術会議 日韓神学シンポジウム2014

「いのちの尊厳の確立」セッションⅠ報告

「いのちの尊厳の確立」セッションⅡ報告

第3回スピリチュアルケア研究会

「スピリチュアルケアと宗教・哲学・心理学」報告

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究ワークショップ

「感性ことばであそぼう オノマトペがひらく物語の世界

—宮澤賢治の『雪わたり』報告

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究シンポジウム

「絵本の「読み聞かせ」から「読みあい活動」へ

—子どもの育ちに寄り添う楽しい読みの世界とは？ 読み手の読みの謎を紐解こう！」報告

総合研究所 News

スピリチュアルケア研究講演会

「検査社会の到来 “健康” が義務となる社会」（アンケート結果）

カウンセリングシンポジウム「物語に学ぶ心の世界」（アンケート結果）

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究ワークショップ「感性ことばで遊ぼう オノマトペがひらく物語の世界——宮澤賢治の『雪わたり』」（アンケート結果）

【子どもの人格形成と絵本】研究プロジェクト

子どもの育ちと絵本研究シンポジウム「絵本の「読み聞かせ」から「読みあい活動」へ」（アンケート結果）

Vol.24-3, 2014（73頁）

巻頭言 保育は育児か

田澤 薫

【研究ノート】

キリスト教教育におけるアクティブ・ラーニングの試み

—参加型授業としてのキリスト降誕劇

佐野 正子

地理学についての一試論

飯島 康夫

英語発音指導の現状と課題

チェンバレン 暁子

Technology In The Classroom（教室でテクノロジーを使う）Justin Nightingale

Learning To Be A Child Again（一日のみ子供の立場になる）Justin Nightingale

高齢者の死生観に関する研究——「死生観」と「スピリチュアリティ」と

「幸福な老い」との関連を中心に

越智 裕子

小学校3年生のCLIL実践——理科と英語の連携

藤原真知子・相羽千州子

『ケンブリッジ大学図書館蔵古英語版旧約聖書（七書）』の

【報告】

カウンセリングシンポジウム「物語に学ぶ心の世界」報告

第2回人文科学研究会 ラインホルド・ニーバー研究

『人間の本性と運命』第2巻〈人間の運命〉第10章〈歴史の終わり〉

(The End of History) について」報告

第2回アクティブ・ラーニング研究会

「思考を動かす学習デザイン——認知、学習、そして図書館(河島茂生)」報告
『デジタルの際』刊行記念トークイベント(聖学院大学出版会)

「デジタル・ナルシス、あるいは情報偏愛

——デジタル社会の人格・アイデンティティ」報告

第2回「〈児童〉における「総合人間学」の試み」研究会

「伝統的な心理学の中のこども(鎌原雅彦)」報告

第3回スピリチュアルケア研究講演会

「心身の病とたましいのケア

——大切だけれど忘れがちなこと(田村綾子)」報告

第3回人文科学研究会 ラインホルド・ニーバー研究

「ラインホルド・ニーバーの恩寵論

——救済恩寵と一般恩寵の弁証法的関係(五十嵐成見)」報告

第4回スピリチュアルケア研究会

「‘仏性’と‘スピリチュアリティ’を考える——仏教は‘スピリチュアルケア’
に堪えるか?(小森英明)」報告

第2回東日本大震災神学研究会

「北東アジアの和解に向けて——平和学の観点からの提言(小松崎利明)」報告

第15回ピア・スーパービジョン報告

第3回「〈児童〉における「総合人間学」の試み」研究会

「「こどものまち」で培われる高学年児童の主体性について——子どもがつく
るまちミニさいたまを支える大人の関わりから(老川南美)」報告

【書評】

『十字架とリンチの木』

森田美千代

総合研究所 News

第4回日韓神学者学術会議

日韓神学シンポジウム「いのちの尊厳の確立」(アンケート結果)

第3回スピリチュアルケア研究講演会

「心身の病とたましいのケア」(アンケート結果)

東日本大震災国際神学シンポジウム2014年度報告

Vol.24- 特別号, 2014 (117頁)

巻頭言 教師であることの意義

松本 祐子

【教育論文】

Inculcating critical and analytical thinking among our students

Mehran Sabet

コミュニケーションと英文法指導

小川 隆夫

「生きる力」と死の受容

——小学校国語科教材から、老いと死について考える

松本 祐子

保健科教育におけるヘルス・プロモーションの理念について

和田 雅史

【実践レポート】

「文章表現法」指導実践報告

副田 恵

子どもの表現を引きだすための保育者の役割

相川 徳孝

「道德教育」をめぐる大学生の育ち

——児童学科における小学校教職課程「道德教育の研究」での
授業実践から

市村 和子

大学における効果的な小学校教員養成の試み

——児童学科における小学校教職課程での授業実践から

川瀬 敏行

「数をいろいろな方法で表す」(n進法)

——ユニバーサルデザイン授業の試み

齋藤 範雄

【研究ノート】

子どもの思いや願いを生かした授業づくり

——生活科、国語科を中心に

市村 和子

キリスト教主義学校における学校行事(クリスマス・ページェント)を

通じた自己形成について——聖学院小学校卒業文集の分析を通じて

小池 茂子

【教材発表】

地理学の発展史

飯島 康夫

ピアノ初学者のための「音楽A」演奏教材の開発

山田 裕治・渋谷みどり・塚原 晴美・矢持真希子・阪 まどか